

告考

豫后

書

年號月日

醫師 氏名 印

縣令宛

第七號書式

施治患者死亡届

何縣何國何郡何町番地居住 借舍
 族籍職業未婚已婚 (既婚ニハ割註ニ有配偶
 無配偶ノ別ヲ記スヘシ) 何 某 年 齡

右私施治ノ患者ニ候處死亡候間此段致御届候也

年號月日 郡區長宛 醫師 何 某 印

第八號書式

死胎分娩御届

肩書前ニ同シ

○衛生

百七十七

妊娠何ヶ月

何某妻又ハ何々

族籍

公生又ハ私生

何

某

死胎分娩年月日午 前何時

右私取扱ノ妊婦ニ候處死胎分娩候間此段致御届候也

年 齡

年號月日

郡區長宛

醫師 何

某 印

第九號書式

死胎檢案届

肩書第七號書式ニ同シ

何病ノ部

族籍職業未婚既婚 (既婚ニハ割註ニ有配偶
無配偶ノ別ヲ記スヘシ) 何 某 年 齡

病名年月日午 前何時死亡

病名判然セサル者ハ死者
ノ景態ヲ明記スヘシ

右之者死胎檢案候處相違無之候也

年號月日

郡區長宛

醫師 何

某 印

第十號書式

死胎分娩檢案屆

肩書第七號書式ニ同シ

何某妻又ハ何々

族籍

何

某

年 齡

妊娠何ヶ月
公生又ハ私生
死胎分娩年月日午前何時
死胎分娩ニ至ル所以ヲ記載スヘシ
右死胎檢案候處相違無之候也

肩書第七號書式ニ同シ

年號月日

郡 區 長 宛

醫 師 何

某 印

○甲第五號

明治十八年一月十七日

公私立病院設置規則別紙ノ通之ヲ定ム
別紙

公私立病院設置規則

第一條 公立若クハ私立病院及支院出張所ヲ設立セントスルキハ第一號書式ニ依リ

廿一年(四
月)縣令第
四十二號ヲ
以テ第四條
削除

(私立ニハ衛生委員連署シ)戸長(區ハ區長)ノ與書ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ願出
ヘシ
但廢止又ハ移轉スルキハ本文ノ手續ニ依リ届出ヘシ

第二條 公私立病院ノ位置名稱及ヒ院則等ヲ變更セントスルキハ其事由ヲ記シ前條
ノ手續ニ依リ縣廳ヘ願出ヘシ

第三條 公私立病院長及醫員調劑員ノ進退給料ノ増減等ハ其時々管理者ヨリ郡區役
所ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第四條

第五條 公私立病院ニ於テハ醫術開業規則第三條乃至第七條ヲ遵守スヘシ

第一號書式

公私立病院又ハ(公私立病院ハ入院患者十名以上支院出張所ハ五名)支院出張所
以上ヲ入ルヘキ病室アルニアラサレハ之ヲ許サス

設立願

一病院位置
何郡區何町村何番地

一名稱

公私立何々病院

一院則

患者診察ノ手續入院料
藥價診察料差等ノ類

○衛生

別紙ノ通

一 治療ノ目的
別紙ノ通

一 院長及ヒ醫員調劑員履歴
別紙ノ通

一 院長及醫員調劑員給料
每一人一ヶ月金何程
別紙ノ通

一 病院費用
書籍器械等入費
營業入費並ニ諸雜費
雇人給料

一 月金何程
一 月金何程
一 月金何程
一 月金何程
一 月金何程
一 月金何程

其他收入(聯合村費收入金ヲ記ス)見積概略ヲ記スヘシ
右之通設立仕度此段奉願候也

年月日
縣令宛
何郡區何町村
某印

第二號書式

公私立病院明細調

明治何年 自()月 至()月

種別	地病室設立院長調劑員 名坪數年月氏名局長氏名	患者	醫員		調劑員	看病人	金額定	入收雜	金付寄	合計	額ノ支出	金立積
			内國	外國								
公立												
私立												
支院又ハ出張												

解釋

院長醫員等ハ期末ノ現員治療患者ハ其期內(上半期ナレハ自一月至六月下半年ナレハ自七月至十二月)ノ數金額ハ同上ノ總額ヲ記載スヘシ

○甲第二十號 明治十八年三月十日

飲食物及玩弄物着色料取締規則別紙ノ通之ヲ定ム
右布達候事

(別紙)

飲食物及玩弄物着色料取締規則

第一條 飲食物及玩弄物(小兒ノ手遊ニ供スルモノ)ニ用ユル各種ノ彩色料ハ無害無毒ノ品ニアラサレハ賣買又ハ使用スルコトヲ許サス

○衛生

第二條 左ニ列記スル品ニ限り賣買又ハ使用スルヲ得

- 青色ノ部
 - 一 青粉 豆葉菜葉艾葉
 - 一 挽茶ノ粉
- 黄色ノ部
 - 一 鬱金根
 - 一 山梔子
 - 一 狗骨南天根 エキス
 - 一 ズミ
- 赤色ノ部
 - 一 細工紅 本紅
 - 一 カルミーン
 - 一 麒麟血
 - 一 代赭石
 - 一 猩臙脂
 - 一 桃色ノ部
- 一 覆盆子ノ汁
- 一 サフラン
- 一 黄柏皮 エキス
- 一 黄土 硫酸礬土ノ水酸化鐵ト混スルモノ
- 一 蘇木 枯礬ヲ入製スルモノ
- 一 茜草
- 一 赤石脂
- 一 鉄丹
- 一 狗骨南天實汁

○衛生

- 一 櫻實汁
- 白色ノ部
 - 一 鹿角若クハ骨質ノ燒キタルモノ
 - 一 白色粘土
 - 一 石膏末
 - 一 黒色ノ部
 - 一 松煙墨
 - 一 烏梅
 - 一 骨炭
 - 一 紫色ノ部
 - 一 ラツクムース
 - 一 蘇木
 - 一 褐色ノ部
 - 一 褐色炭 土様ノモノ
 - 一 緑色ノ部
 - 一 緑土 粘土ト亞酸化鐵マク子
 - 一 緑汁 シーム等混スルモノ
- 一 阿仙藥
- 一 黒石脂
- 一 木炭
- 一 紫根
- 一 鼠李 未熟實ヨリ製スルモノ
- 一 炭酸石灰
- 一 白色骨石

鑲色ノ部

一金箔

一銀箔

一錫葉

一鐵葉

第三條 第二條ニ掲ケタル品目外ノ彩色料ヲ販賣又ハ使用セント欲スルモノハ其品名成分製法及ヒ其產地買求先等ヲ詳記シタル願書(量目二)ヲ添ヘ町村衛生委員連署ノ上郡區役所ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受ケ可シ

○甲第四十八號

明治十八年五月十八日

明治十四年(三月)甲第五十號布達ニ依リ醫師ニ於テ痘瘡患者ヲ報告スルキハ該報告書職業ノ次ヘ左ノ區別ニ依リ之ヲ記載スヘシ

一未種痘

一何年何月何日初種若クハ再三種 善 感ノ別 不善 感ノ別

一何年何月何日天然痘瘡

右布達候事

○甲第六十號

明治十八年七月十四日

入齒々抜口中療治接骨營業取締規則別紙ノ通相定メ來ル八月一日ヨリ施行ス

(別紙)

入齒々抜口中療治接骨營業取締規則

第一條 入齒々抜口中療治接骨ハ免許鑑札所持ノ者ニ非ラサレハ營業スルヲ得ス

第二條 他府縣ヨリ轉籍若クハ寄留シ引續營業セントスル者ハ其營業者タルヲ證スヘキ元管廳ノ添書ヲ受ケ町村衛生委員連署戸長(區長)ノ與書ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ

第三條 他府縣ヘ轉籍若クハ寄留セントスルキハ町村衛生委員連署戸長(區長)ノ與書ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出添書ヲ請フヘシ

但本文ノ場合ニ於テハ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第四條 管内ニ於テ轉籍寄留スルカ又ハ廢業死亡スルトキハ町村衛生委員連署戸長(區長)ノ與書ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

但廢業死亡スルキハ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第五條 免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ氏名ヲ變換セシキハ其事由ヲ具シ町村衛生委員連署戸長(區長)ノ與書ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出鑑札書換又ハ更ニ下渡ヲ受クヘシ

第六條 服藥ヲ投シ藥方ヲ指示シ又ハ猥ニ施術ヲ勸誘スヘカラス

第七條 免許鑑札ヲ貸借讓與スヘカラス

第八條 本則第六條第七條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

廿二年(四)月(四)日
縣令第...
改正

○衛生

○甲第九十八號 明治十八年十二月二十八日
 種痘施行細則別紙ノ通制定シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス
 但明治十三年七月甲第百十五號布達ハ此細則施行ノ日ヨリ廢止ス
 右布達候事

(別紙)

種痘施行細則

- 第一條 種痘ハ毎年春(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ニ於テ普ク之ヲ行フヘシ
- 但本條季節内己ムヲ得ス種痘シ能ハサルモノハ季節外ト雖モ特ニ之ヲ行フヘシ
- 第二條
- 第三條 戶長(區長)ハ毎年二月八月ノ兩度ニ當季種痘スヘキ人名ヲ取調種痘ヲ委託シタル醫師ニ通知スヘシ
- 第四條 郡區長ハ第一條ノ季節内ニ於テ適宜各町村ノ種痘施行期日ヲ指定シ所轄警察署又ハ警察分署ニ通知シ且之ヲ郡區内ニ公告スヘシ
- 第五條 郡區長ニ於テ種痘施行期日ヲ指定シタル戶長(區長)ハ便宜ノ地ニ種痘所ヲ設ケ當季接種ノ醫師ヲ委託シ部内漏ナク通報スヘシ
- 但本條ニヨラス他ノ開業醫ニ付種痘スルモ妨ケナシ

廿一年(十
 月)縣令
 以テ第四
 條ヲ今
 削除ス

- 第六條 種痘濟ノ者ヘハ醫師ニ於テ第一號書式(不善感ハ)ノ證書ヲ付與スヘシ
- 第七條 種痘證ヲ受領シタルキハ本人住居地ノ戶長役場ヘ届出ヘシ

第一號書式

竪六寸五分

證

何府縣何郡區何町村番地寄留又ハ
 何々何某何男何女又ハ何々 氏 名

初種又ハ再種三種 何年何ケ月

左何顆 善感種痘濟

右何顆

宮城縣何郡區何町村番地 種痘醫

年月日 氏 名 印

第二號書式 用紙西ノ内

○衛生

- 一 療治料扶助料埋葬料(地方税ヲ以テ雇入レタル者)
 - 一 檢疫委員以下夜勤宿直賄料
 - 一 印刷費
 - 一 消毒藥費
 - 一 藥品費
 - 一 郵便電信及運搬費
 - 一 赤貧患者治療賄料
 - 一 赤貧患者火葬及汚穢物燒却諸費
 - 一 赤貧患者汚染物品買上費
- 但以上三項ノ赤貧患者ハ本籍寄留旅行ヲ問ハサルモノトス
左ノ各項ニ屬スルモノハ町村衛生費ヲ以テ支辨スルモノトス
- 一 町村立檢疫所避病院隔離舎ノ雇給備品及消耗費
 - 一 町村立檢疫所避病院隔離舎建築修繕費及雜費
- 但病勢ノ景況ニ依リ町村立避病院及隔離舎ト雖モ地方税ヲ以テ支辨スルコトアル可シ
- 一 町村檢疫係醫師俸給旅費
 - 一 町村立避病院及隔離舎事務係醫員調劑生俸給旅費

- 一 恩賞
 - 一 療治料扶助料埋葬料(町村費ヲ以テ雇入タル者)
 - 一 町村檢疫醫師以下夜勤宿直賄料
 - 一 印刷費
 - 一 消毒藥費
 - 一 藥品費
 - 一 患者治療及賄料但各自支辨シ能ハサル者
 - 一 患者死去汚穢物運搬人足費全上
 - 一 火葬汚穢物燒却諸費全上
 - 一 貧困患者汚染物品買上費
 - 一 貧困患者遺族隔離中救恤費
 - 一 無資力營業者ニ關スル飲食物販賣品實價還費
- 訓令第八十一號 明治二十年十一月十七日 郡區町村
- 避病院及吐瀉物汚穢物埋燒場設置手續ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 避病院及吐瀉物汚穢物埋燒場設置手續
- 第一條 避病院ノ位置ハ往來繁多ナル道路及河流井泉ニ接近セス且ツ人家ヲ距ルコト百間以上ニシテ恒風ノ上ニアラサル地ヲ選ミ設置スヘシ

- 第二條 傳染病者ノ吐瀉物汚穢物ヲ燒棄シ又ハ埋却スルノ地ハ耕宅地ニアラサル民有地ニシテ前條ニ抵觸セサル地ニ設クヘシ
- 第三條 燒棄場ハ地質鬆疎ナラサル地へ適當ノ穴ヲ掘リ其周圍底部ニハ漆喰(厚サ三寸)ヲナシ且ツ雨水ノ壙内ニ注入スルヲ防クニ足ルヘキ構造ヲナスヘシ
- 第四條 戶長(區ハ區長)ハ所轄警察署長又ハ分署長ト協議シ每町村又ハ數町村ニ於テ豫メ第一條ニ該當スル地ヲ選定シ其地坪及地種地目ヲ記載シ繪圖面ヲ添ヘ郡長ヲ經テ願出ヘシ
- 第五條 避病院ハ常設保存ト一時使用トノ區分ヲ記シ建築圖面ヲ添ヘ戶長(區ハ區長)ハ郡長ヲ經テ願出ヘシ
- 第六條 傳染病流行ニ際シ空屋ヲ避病院ニ假用セントスル場合ニ於テハ戶長(區ハ區長)ハ所轄警察署長又ハ分署長ト協議シ郡長ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得但本條ノ場合ニ於テハ郡長ハ即時之レヲ縣廳ニ申報スヘシ
- 第七條 急劇ノ場合ニ於テ吐瀉物汚穢物燒棄場又ハ埋却場ヲ設ケントスルハ第六條ノ手續ニ依リ之ヲ執行スルヲ得此場合ニ於テハ郡長ハ其地坪及地種地目ヲ記載シ繪圖面ヲ添ヘ速カニ申報スヘシ
- 第八條 避病院ヲ開閉セントスルトキハ戶長(區ハ區長)ハ所轄警察署長又ハ分署長ト協議シ郡長ヲ經テ速ニ申報スヘシ

○縣令第八十四號

明治二十年十一月十七日

針灸術營業取締規則ヲ改ムルヲ左ノ如シ

針灸術營業取締規則

- 第一條 管内ニ於テ針灸術ヲ營業スル者ハ免許鑑札ヲ有シタルモノニ限ル但開業醫ニシテ針灸術ヲ爲スモノモ本條ニ依ルヘシ
- 第二條 免許鑑札ヲ得ントスルモノハ左ノ書式ニ依リ其師家ノ證書ヲ添ヘ郡區役所ヲ經テ縣廳へ願出ヘシ但師家死亡シ其證書ヲ得難キ場合ニ於テハ同業者二名以上ノ證明書ヲ添付スルモノトス
- 第三條 醫師治療中ノ患者ニ對シテハ其主治醫ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ施術スヘカラス
- 第四條 患者ニ藥劑ヲ投シ藥法ヲ指示シ又ハ神佛ノ加護等ヲ唱ヘ或ハ人ヲ勸誘シテ施術スヘカラス
- 第五條 免許鑑札ハ貸借スルヲ得ス
- 第六條 營業ノ爲メ外出スルハ必ス鑑札ヲ携帯スヘシ
- 第七條 免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ氏名ヲ交換シタルトキハ其事由ヲ具シ戶長ノ奥印ヲ受ケ郡區役所ヲ經テ縣廳へ願出書換ヲ受クヘシ

廿一年(四)月廿八號
以三十八號ヲ
テ改正

第八條 轉籍又ハ移住スルキハ戶長及郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ
第九條 廢業死亡又ハ管外ヘ轉籍寄留スルキハ前條ノ手續ヲ經テ免許鑑札ヲ縣廳ヘ
返納スヘシ

第十條 針灸術營業者其業務ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ其營業ヲ差止
メ免許鑑札ヲ返納セシムルコトアルヘシ

但本條ノ場合ニ於テ三ヶ月以上ヲ經過シ再ヒ願出ルキハ其情狀ニ依リ更ニ免許
鑑札ヲ下附スルコトアルヘシ

第十一條 第一條第三條第四條第五條第六條ヲ犯シタルモノハ二日以上五日以下ノ
拘留又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス
書式

針灸術營業免許鑑札御下渡願

私儀針灸術營業仕度候ニ付免許鑑札御下渡相成度別紙履歷書及師家某ノ證明書相
添此段奉願候也

何郡(區)何町(村)番地(借舍)(寄留)

族籍

年月日

氏

名印

宮城縣知事宛

何郡(區)何町(村)番地(借舍)(寄留)
族籍

氏

名

何年何月生

前書ノ通り願出ニ付奥印仕候也
年月日

區戶長氏

名

印

履歷書

一何年何月ヨリ何年何月マテ何ノ誰ニ隨ヘ何術修業
右ノ通相違無之候也

右

年月日

氏

名

印

○縣令第二十二號 明治二十一年三月十三日

人身死体解剖規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

人身死体解剖規則

第一條 縣公立病院及ヒ開業醫ハ醫術研究ノ爲メ死者生前ノ情願ニ據リ若クハ其
父兄親族ノ承諾ヲ得テ其死体ノ全部若クハ局部ヲ解剖スルコトヲ得
但刑死者及在監ノ死亡者ニシテ遺体ノ下付ヲ請フモノ無キハ縣公立病院ニ於

○衛生

テ其死体ヲ解剖スルコトヲ得其死者生前ニ於テ私立病院若クハ開業醫ニ情願シタルモノハ私立病院若クハ開業醫ニ於テ亦之ヲ行フコトヲ得

第二條 縣公私立病院及開業醫ニ於テ死体ヲ解剖セントスルキハ剖檢スヘキ目的、全体若クハ其局部、執行ノ時日、場所等ヲ詳記シ縣立病院ハ直ニ縣廳ニ公立病院ハ郡區役所ヲ經テ縣廳ニ私立病院及開業醫ハ戶長(區ハ區長)ノ與書ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三條 解剖ハ死後二十四時間ヲ經過スルニアラサレハ之ヲ行フヲ得ス

第四條 解剖シタル後ハ縫理シテ原体ニ復シ舊形ヲ變セシムヘカラス

第五條 解剖ハ係官醫師醫學生徒及死者ニ關係シタル者ノ外參觀スルヲ得ス

第六條 病体解剖ヲ了シタルキハ其實況ヲ詳記シタル解剖說ヲ作り其時々第二條ノ手續ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

○縣令第二十三號 明治二十一年三月十三日

縣立病院ヲ仙臺區元貞坂三番地ニ設置シ宮城病院ト稱ス

○縣令第三十二號 明治二十一年四月五日

宮城病院職制ヲ定ムルヲ左ノ如シ

宮城病院職制

第一條 宮城病院ハ管内一般ノ患者ヲ治療シ兼テ第二高等中學校醫學部生徒ノ臨床

實驗ニ供スル所トス

第二條 宮城病院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長

醫科長

院醫

院醫補

藥局長

藥局副長

調劑員

書記

第三條 院長ハ知事ノ指揮監督ヲ受ケ宮城病院一切ノ事務ヲ經理ス

職員(調劑員及月俸拾圓以下ノ雇員ヲ除ク)ノ進退黜陟ハ之ヲ知事ニ具申ス可シ

臨時ニ起リタル事項ハ知事ノ許可ヲ得テ後ニ之ヲ處分スヘシ

第四條 院長ハ管内ノ衛生並ニ病院ノ狀況ヲ監察シ改良スヘキ必要アリト認ムルキハ案ヲ具テ知事ニ提出ス可シ

第五條 醫科長ハ院長ノ指揮ヲ承ケ各科ノ醫務ヲ整理シ患者ノ治療ヲ擔任ス院長事

故アルキハ首坐ノ者其事務ヲ代理ス

第六條 院醫ハ院長及醫科長ノ指揮ヲ承ケ各科ノ醫務及ヒ患者ノ診斷治療ヲ分擔ス
 第七條 院醫補ハ院醫ヲ補佐シ各科ノ醫務ヲ分擔ス
 第八條 藥局長ハ院長ノ指揮ヲ承ケ藥局ノ事務ヲ主宰シ藥物試驗ヲ擔任ス
 第九條 藥局副局長ハ職掌藥局長ニ亞ク
 第十條 調劑員ハ藥局長及藥局副局長ノ指揮ヲ承ケ藥劑配合ヲ分擔ス
 第十一條 書記ハ院長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

○縣令第二十一號 明治二十二年三月二十六日
 娼妓梅毒検査規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

但本年四月一日ヨリ施行ス

娼妓梅毒検査規則

第一條 貸坐敷所在ノ地ニハ梅毒検査所ヲ置キ醫員ヲシテ毎水曜日娼妓ノ梅毒ヲ検査セシム但梅毒潜伏ノ疑アルモノハ臨時検査スルコトアルヘシ
 第二條 新ニ娼妓ノ免許ヲ受ケタルモノハ渡世地ノ梅毒検査所ニ於テ検査ヲ受ケ梅毒検査證ヲ受取ルヘシ検査ヲ受ケスシテ就業スルヲ許サス
 娼妓ノ疾病事故ノ爲メ七日以上休業シテ就業スルモ亦同シ
 第三條 検査ハ必ス検査室ニ於テシ醫員及看護人ノ外其室内ニ入ルヲ許サス
 第四條 検査當日娼妓他ノ疾病ニ罹リ検査所ニ出頭シ能ハサルモハ醫員ハ取締人ト

共ニ其所在ニ就テ検査スヘシ

第五條 娼妓梅毒ノ検査ヲ受ケタルトキハ所持ノ検査證ニ醫員ノ證印ヲ受クヘシ
 第六條 第一條第二條第四條ノ検査ニ於テ梅毒ニ罹リタルモノト認ムルモハ醫員ハ梅毒院ニ入院治療ヲ命シ梅毒院ノ設ケナキ地ハ貸坐敷内ニ於テ治療スルモノトス但本條ノ場合ニ於テハ醫員ヨリ所轄警察署又ハ警察分署ニ通報スヘシ
 第七條 検査所ニハ主務官警察官吏又ハ他ノ醫員ヲ派遣シ監視セシムルコトアルヘシ
 第八條 検査ノ時限順序其他検査上必要ナル細則ハ検査所ニ於テ之ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受ケ所轄警察署又ハ警察分署ニ通報スヘシ

○縣令第二十二號 明治二十二年三月二十六日

娼妓梅毒院規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

但本年四月一日ヨリ施行ス

娼妓梅毒院規則

第一條 貸坐敷所在ノ地ニハ梅毒院ヲ置キ娼妓ノ梅毒ニ罹リタル者ヲ入院治療セシム
 梅毒院ノ設ケナキ地ハ貸坐敷内ニ於テ別室ヲ區畫シ治療セシムルモノトス
 第二條 入院患者ノ治療及調劑ハ梅毒検査醫ニ於テ之ヲ擔任スルモノトス
 第三條 入院患者アルモ醫員ハ之ヲ病室ニ配置シ病症ノ輕重ニ依リナルヘク患者ヲ

區別スルヲ要ス

第四條 娼妓ノ梅毒治療費ハ總テ梅毒院ヨリ支辨スルモノトス但入院中ノ賄料ハ本文ノ限リニアラス

第五條 入院患者危篤ニ臨ミタルキハ其出稼貸坐敷主ニ通報スヘシ

第六條 入院中ノ娼妓治療退院ヲ命スルキハ退院證ヲ交付シ本人ヲ出稼貸坐敷主ニ引渡シ其旨所轄警察署又ハ警察分署ニ通報スヘシ

娼妓死亡シタルキハ出稼貸坐敷主及所轄警察署又ハ警察分署ニ通報シ其死屍ヲ貸坐敷主ニ引渡スヘシ

第七條 娼妓入院中其父兄親族又ハ出稼貸坐敷主ニ於テ面會ヲ請フトキハ掛員立會ノ上之ヲ許ス其時限ハ午前八時ヨリ午後三時マテトス但急用アルキハ本條ノ時限外ト雖許スコトアルヘシ

第八條 醫員及掛員ト雖モ回診又ハ要用アルトキノ外病室内ニ入ルヘカラス

第九條 娼妓入院中ハ藥用攝生食事入浴等凡テ醫員ノ命ニ從ヒ所定ノ時間ニ於テシ醫員ノ許可ナキ食物ハ一切喫食スルヲ許サス

第十條 第一條第二項ニ依リ貸坐敷内ニ於テ治療スルトキモ此規則ニ準據スヘシ

第十一條 病室取締ニ關シ必要ナル細則ハ梅毒院ニ於テ之ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

○縣令第四十五號

明治二十二年五月十八日

產婆取締規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

但明治十四年(一月)甲第六號布達產婆取締規則ハ廢止ス

產婆取締規則

第一條 產婆ハ内務省ノ開業免狀若クハ本縣免許證ヲ有スル者ニ限ル但此規則發布以前ニ下附シタル產婆營業免許鑑札ハ尙其効アリトス

第二條 產婆ハ開業免狀又ハ免許證若クハ營業免許鑑札ヲ皆附讓與スルヲ許サス

第三條 產婆ハ平常藥劑ヲ授與シ又ハ異常產ニ臨ミ器械ヲ應用スルヲ許サス但救急ノ場合ニ於テ無害ノ藥劑ヲ投スルハ此限リニアラス

第四條 本縣免許證又ハ營業免許鑑札ヲ有スル產婆其業ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行爲アルキハ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ但其事免許證ヲ得ル前ニアリト雖モ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第五條 本則第四條ヲ除キ第一條第二條第三條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○縣令第四十六號 明治二十二年五月十九日

產婆免許規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

產婆免許規則

○衛生

第一條 內務省ノ產婆開業免狀ヲ得ントスル者ハ縣立產婆講習所ニ於テ左ノ科目ヲ修業シ其履歷書ヲ添ヘ直ニ縣廳ニ又ハ之ニ同シキ科目ノ修業證ヲ有スル者ハ其證ヲ添ヘ毎年二月十五日限リ市町村長ノ與書ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出試驗ヲ受クヘシ

- 一 人身解剖學大意
- 二 人身生理學大意
- 三 平常妊娠及順產論
- 四 正規ノ產褥及哺乳論
- 五 妊娠及分娩經過中ノ異常論
- 六 產褥期及哺乳期中ニ起ル障害ノ論
- 七 實地

第二條 本縣免許證ヲ得ントスルモノハ產婆組合又ハ縣廳ノ認可ヲ受ケタル私立產婆講習所ニ於テ左ノ科目ヲ修業シ其證ヲ受ケ願書ニ添付シ市町村長ノ與書ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ

- 一 婦人生殖器ノ位置構造及生理功用ノ大意
- 二 妊娠ノ徵候
- 三 分娩期

四 正規產褥及嬰兒看護ノ法大意

五 胎兒異常位置診斷法大意

六 產婦種々ノ疾病徵候

七 實地

第三條 第一條及第二條ノ出願者ハ年齡滿二十年以上ノ女子ニシテ盲聾啞等ノ疾患ナキモノニ限ル

第四條 內務省ノ開業免狀又ハ本縣免許證ヲ毀損亡失シ又ハ氏名ノ變換ニ依リ書換ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ記シ市町村長ノ與書ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ

第五條 內務省ノ開業免狀ヲ有スルモノ他府縣へ轉籍寄留スルトキハ市町村役場及郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ但本縣免許證ヲ有スルモノ本條ノ場合ニ於テハ其證ヲ返納スヘシ

第六條 內務省ノ開業免狀又ハ本縣免許證ヲ有スルモノニシテ他ノ郡市町村へ轉住スルトキハ前條ノ手續ニ依リ届出ヘシ但內務省ノ開業免狀ヲ有スルモノニシテ他府縣ヨリ轉籍寄留シ開業セントスルトキハ其免狀寫ヲ添ヘ本條ノ手續ニ依ルヘシ

第七條 內務省ノ開業免狀又ハ本縣免許證ヲ有スルモノ廢業若クハ死亡シタルキハ市町村役場郡役所ヲ經テ其免狀若クハ免許證ヲ返納スヘシ

第八條 第一條ノ試験ハ毎年三月之ヲ舉行スルモノトス

第九條 第一條ノ試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 人身解剖學大意
- 二 人身生理學大意
- 三 平常妊娠及順産論
- 四 正規ノ産褥及哺乳論
- 五 妊娠分娩經過中ノ異常論
- 六 産褥期及哺乳期中ニ起ル障害ノ論
- 七 實地

第十條 試験問題ハ一科一問宛トシ其應答筆記ノ時期ハ毎題二時間トス但實地ハ口答トス

○縣令第四十七號 明治二十二年五月十九日
産婆組合設置規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

産婆組合設置規則

第一條 産婆ハ業術ヲ研究シ風儀ヲ匡正センカ爲メ組合ヲ設ク可シ

第二條 産婆組合ニ於テハ少ナクトモ一ケ年四回以上醫師若クハ内務省免許ノ産婆ニ講師ヲ囑托シ左ニ掲クル科目ノ研究ヲナスヘシ但講師ヲ囑托セントスルトキハ

市長又ハ郡長ノ承認ヲ受クヘシ

- 一 婦人生殖器ノ位置構造及生理功用ノ大意
- 二 妊娠ノ徴候
- 三 分娩期
- 四 正規産褥及嬰兒看護ノ法大意
- 五 胎兒異常位置診斷法ノ大意
- 六 產婦種々ノ疾病徴候
- 七 實地
- 第三條 産婆組合ニ於テ前條科目ノ研究ヲ卒ヘタルモノニハ其證ヲ交付スヘシ
- 第四條 第二條研究用ノ書籍ハ組合ニ於テ適宜選用スヘシ
- 第五條 産婆組合ノ區畫ハ市長又ハ郡長ニ於テ之ヲ指定スルモノトス
- 第六條 組合區畫内居住ノ産婆ハ組合ニ洩レ又ハ正當ノ事故ナクシテ研究ニ欠席スルコトヲ得ス
- 第七條 將來産婆ヲ營マントスルモノニシテ組合ニ入ランコトヲ請フトキハ組合ニ於テ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第八條 産婆組合ニ於テハ其業務ニ關スル規則及令達ヲ普及シ之ヲ研究スルノ方法ヲ設クヘシ

第九條 產婆組合ニ於テハ左ノ各項ヲ標準トシ細目ノ規約ヲ設ケ郡役所又ハ市役所

ヲ經由シ縣廳ノ承認ヲ受クヘシ但規約ヲ變更増補スルキモ亦同シ

一 業術ノ研究ニ關スルコト

二 風儀ヲ匡正シ業務ヲ保護スルコト

三 妊産婦ニ對スルコト

四 醫師及同業者ニ對スルコト

五 組合經費支辨法ノコト

第十條 組合ノ經費ハ組合ニ於テ負擔スヘシ

○縣令第六十七號

明治二十二年十一月十二日

醫師獸醫藥種商製藥ヲ除クノ外格魯兒酸加留護（鹽素酸加留護又ハ鹽酸加里）ヲ賣買授受スル者ハ豫メ其斤量及ヒ需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受ク可シ但シ警察官ハ臨時其現品ヲ検査スルコトアルヘシ

前項ノ手續ニ違反シ賣買授受ヲ爲シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

廿三年縣令第九號ヲ以テ更正
廿六年（二）月縣令第七號ヲ以テ追加

書式

格魯兒酸加留護

斤量

右ハ（醫藥）（職工用等何々）必要ニ付前書ノ斤量（賣買）（授受）致度御認可被成下度候也

本籍何（府縣）何（市郡區）何（町村）番地
族籍

現住所何（府縣）何（市郡區）何（町村）番地
（買主）（受主） 氏 名 實印 年齢

何（府縣）何（市郡區）何（町村）番地族籍
（賣主）（授主） 氏 名 實印 年齢

警察署長（又ハ分署長）宛

○縣令第四號

明治二十三年二月五日

藥種商並製藥者取締細則ヲ定ムルコト左ノ如シ、
但本年三月一日ヨリ施行ス

藥種商並製藥者取締細則

○衛生

- 第一條 藥種商又ハ製藥者免許鑑札ヲ得ントスルモノハ族籍氏名年齢等ヲ詳記シタル願書ニ履歷書ヲ添ヘ町村役場及郡市役所ヲ經由シ縣廳ニ願出ヘシ
- 第二條 藥種商又ハ製藥者免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ本籍氏名ノ變換等ニ由リ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ其事由ヲ記シ前條ノ手續ニ據リ鑑札ノ書換ヲ縣廳ニ願出ヘシ
- 第三條 藥種商又ハ製藥者他市町村ニ轉籍寄留シタルトキハ十日以内ニ第一條ノ手續ニ據リ縣廳ニ届出ヘシ
- 他府縣ニ轉籍寄留スルキハ本條ノ手續ニ據リ免許鑑札ヲ縣廳ニ返納スヘシ
- 第四條 藥種商又ハ製藥者廢業若クハ死亡セシキハ十日以内ニ第一條ノ手續ニ據リ免許鑑札ヲ縣廳ニ返納スヘシ
- 但死亡ニ係ル届出ハ戸主之ヲ爲スヘシ戸主未定又ハ不在ナルトキハ死者ノ相續者其相續者未定又ハ不在ナルトキハ其財産ヲ管理スル者之ヲ爲スヘシ
- 第五條 一容器ノ藥品ヲ更ニ數容器ニ分ツキハ其分チタル容器ニ製造者(會社ナレハ其所在地名及社名)若クハ外國藥品引次人ノ住所氏名ト自己ノ住所氏名トヲ併記スヘシ
- 第六條 藥種商ニ於テ數容器ニ分チタル藥品又ハ製藥者自己ノ製品ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ

廿五年(五
月)縣令第
二十九號第
以テ第四條
但書追加

但衛生試驗所ノ検査印紙ヲ貼付シタルモノハ此限ニアラス

- 第七條 藥種商製藥者ニ於テ使用スル封緘用印紙ノ衛生試驗所検査印紙ニ紛ハシキモノト認ムルキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ
- 第八條 藥種商製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用外品トヲ區別シ置クヘシ
- 第九條 第一條第三條第二項第七條第十一條ヲ除キ其他ノ各條ニ違背シタルモノハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

- 第十條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣及製造ノ業ヲ營ムキハ十日以内ニ第一條ノ手續ニ據リ縣廳ニ届出ヘシ
- 第十一條 本則施行以前ニ於テ内務省ヨリ製藥免許證ヲ受ケタル者ト雖モ本則ニ據リ縣廳ニ願出テ更ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

○縣令第十號

明治二十三年二月十八日

流行性感胃(インフルエンザ)ヲ診察シタル醫師ハ其患者ノ住所氏名職業年齢發病並ニ初疹ノ月日病症ノ輕重徵候(全治及死亡ハ經過ノ大要)ヲ記載シ速ニ縣廳ニ届出ツ可シ

○縣令第二十四號

明治二十三年四月十八日

醫師ニ於テ左ノ病症ヲ診斷(全治及死亡トモ)シタルトキハ別紙書式ニ依リ其都府縣

○衛生

應ニ届出可シ但第一項ハ流行ノ兆アリト認ムル場合ニ限ル
 一 麻疹、風疹、コローブ、百日咳、流行性腦脊髄膜炎
 一 肺デストマ病、肝臓デストマ病
 一 前二項ノ外地方ニ於テ流行病ト認ムルモノ

告 報 者 患 病 行 流	
病 名	何郡(市)何町(村)(大字)何番地 職業 氏 名
初診 何年何月日	生年月
治療 全	
死亡 全	
考 備	
何年何月日	何郡(市)何町(村)大字何番地 醫師 氏 名 印
宮城縣知事宛	

○縣令第四十二號
 明治二十三年八月十二日

虎列刺病豫防法ヲ定ムルコト左ノ如シ
 虎列刺病豫防法

虎列刺病ハ傳染病中ノ最モ猛惡ナルモノニシテ其蔓延流行スルニ當テハ兇暴慘虐
 至ラサルナキコト世人ノ普ク熟知スル所ナリ抑モ本病ノ病毒ハ一種ノ細菌ニシテ
 主トシテ患者ノ吐瀉物中ニ舍ルカ故ニ本病ヲ豫防スルニハ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セ
 ルモノ、消毒法ニ遺漏ナキハ勿論患者發生ノ最初即チ病毒ノ未タ散逸セサル以前
 ニ於テ充分消毒法ヲ行ヒ病災ヲ其一小局部ニ熄滅セサルヘカラス

第一條 虎列刺病患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ遵守スヘシ

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避
 病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫入之ニ適宜ノ石
 灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ吐瀉物ヲ受ケタル後ハ更ニ前記ノ
 消毒藥ヲ澆キ其吐瀉物ハ成ル可ク之ヲ燒棄スルコト
- 五 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰
 若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ澆キ(成ル可ク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎

ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト

- 六 患者ノ用ヒタル衣服器具其他吐瀉物ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ散亂セサル様之ヲ取纏メ置キ消毒法ヲ受ケシムルコト
 - 七 患者ノ身体、吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅小蟲ノ集マラサル様注意シ又病室内ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ吐瀉物ニ汚染セサル様注意スルコト
 - 八 看病人ハ己レノ衣服ヲ吐瀉物ニ觸レサル様注意スルコト
 - 九 吐瀉物及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
 - 十 患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外決シテ飲食スヘカラサルコト
 - 十一 患者ト居ラ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒサルコト
- 第二條 吐瀉物其他病毒ニ汚染シタルモノ、消毒ニ從事シタルモノハ其都度消毒法ヲ行フヘシ
- 第三條 虎列刺病發生シタル片ハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫法防ヲ遵守スヘシ但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫法防ヲ各家ニ告知スヘシ
- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト

二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但已ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト

三 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ改修スルコト

四 飲食物ハ成ルヘク熟煮シテ用フルコト

五 総テ下痢ヲ發シタルモノハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ且其下痢患者ノ上レル便所ニハ生石灰、石灰乳、又ハ石炭酸水ヲ灌クコト

第四條 虎列刺病流行ノ際下痢若クハ吐瀉スルモノアルトキハ其瀉下物吐出物ニ石炭酸水、生石灰、若クハ石灰乳ヲ灌キ醫師ノ診斷ヲ乞フヘシ

○縣令第四十三號

明治二十三年八月十二日

醫師ニ於テ虎列刺病ヲ診斷シタルトキハ時ヲ移サス成規ノ通知ヲ爲スハ勿論本年(八月)縣令第四十二號虎列刺病豫防法第一條ノ各項ヲ病家ニ懇諭スヘシ

○縣令第四十四號

明治二十三年八月十三日

傳染病消毒法左ノ通相定ム

傳染病消毒法

傳染病毒ハ其本體已ニ詳ナルアリ未タ詳ナラサルアリト雖モ要スルニ生々蕃殖ノ機能ヲ具ヘタル一種微細ノ有機體ナルハ疑ヲ容レズ此有機體タル各病孰レモ其性狀ヲ

異ニシ傳染ノ景況一ナラス例ハ虎列刺病毒ノ如キハ患者ノ吐瀉物中ニ舍リテ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染シ發疹室扶斯病毒ノ如キハ患者ノ身体及ヒ之ニ接觸セルモノ其他病室内ノ空氣ヨリ傳染シ痘瘡病毒ノ如キハ患者ノ身体病室内ノ空氣ヨリモ傳染シ痘痂痘漿及ヒ之ニ汚染セルモノヨリモ傳染ス故ニ消毒法ノ實施ニ從事スルモノハ各病ノ病性ヲ知悉シ此心得書ニ據リテ火力瀋熱藥劑等總テ消毒ノ効力ヲ有スルモノ、効用用法ヲ領得シ決シテ杜選疏漏ノコトナカラシメテ要ス

消毒ノ効力ヲ有スルモノ、種類及効用

第一 火力

凡ソ消毒法ハ烈火ヲ以テ燒燼スルヨリ安全ナルハナシ故ニ傳染病ノ死体及病毒ニ汚染スルコト甚シクシテ貴重ナラサル品ハ成ルヘク燒却スヘシ

第二 瀋熱附煮沸

傳染病毒ハ攝氏百度以上ノ熱瀋ニ逢フトキハ枯死スルモノナリ故ニ消毒後使用スヘキ物品ハ成ルヘク熱瀋消毒器中ニ入レテ熱瀋ノ内部ニ透達シ易キ様適宜ニ之ヲ排列シ通常衣服ノ類ニ於テハ三十分時間以上臥具ノ類ニ於テハ一時間以上ヲ經ル迄テ攝氏百度以上ノ熱瀋ヲ普テ通シテ消毒スヘシ
熱瀋消毒器ハ其構造宏大ニシテ寒鄉僻地ニ設クルヲ得サルモノアリト雖モ要スルニ攝氏百度以上ノ熱瀋ヲ以テ消毒スヘキ物品ヲ涵蒸スルヲ得ハ足レルカ故ニ簡易

ノ裝置ニ依リテ同様ノ目的ヲ達センコトモ亦難キニアラス今其一法ヲ舉クレハ接合緊密ノ蓋ヲ有セル桶又ハ箱ヲ用ヒ底面ニ孔ヲ穿チテ蒸瀋ヲ導ク處ト爲シ之ヲ釜上ニ裝置シテ蒸瀋ヲ通セシメ而シテ其蓋ニ一小孔ヲ穿チ寒暖計ヲ挿入シ攝氏百度ヲ表スルニ至ラシムヘシ此裝置タル甚タ簡易ニシテ費用ヲ要スル少ナキカ故ニ如何ナル地方ニテモ之ヲ設クルヲ得ヘク而シテ消毒ノ目的ハ十分ニ之ヲ達シ得ルモノナリトス

又熱湯中ニ煮沸スルモ瀋熱消毒法ト其理ヲ同シフス故ニ市町村ニ於テハ煮沸ノ用ニ供スヘキ大釜ヲ備フルルハ十分消毒ノ目的ヲ達シ得ヘシ但煮沸ハ三十分時間以上ヲ持續セサレハ消毒ノ効全カラストス

第三 藥劑

甲石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸五分
水 九十五分

石炭酸水ハ各種ノ傳染病毒ヲ撲滅スルノ力アリテ効用甚タ廣シト雖モ其價格高貴ナルヲ以テ消毒費ヲ増多スルノ憂アリ故ニ成ルヘク他ノ消毒藥ニテ消毒ヲ爲シ難キモノ 例令石灰乳ヲ用フレハ光澤ヲ損シ 其他主トシテ用フヘキ消毒藥ノ缺乏セル場合ニノミ使用スヘシ
本品ハ結晶石炭酸ヲ以テ製スルヲ通例トス然レモ場合ニ依リ粗製石炭酸ヲ以テ之ヲ製シ本品ニ代用スルモ可ナリ但粗製石炭酸水ハ消毒後班點ヲ遺スノ虞アルヲ以

テ構造精緻ノ家屋貴重ノ物品等ノ消毒ニハ使用スヘカラス
本品ヲ以テ消毒スルニハ左ノ件々ヲ守ランコトヲ要ス

一 本品ヲ以テ衣類等ヲ消毒スルニハ十二時間以上浸漬シ其後淨水ヲ以テ更ニ洗
濯スヘシ

二 本品ヲ以テ器具室内ヲ消毒スルニハ拭淨又ハ撒布シテ后淨水ヲ以テ更ニ拭淨
スヘシ

三 本品ヲ以テ手足ヲ消毒スルニハ先ツ本品ヲ以テ洗ヒタル後淨水ヲ以テ洗淨ス
ヘシ

本品ヲ製スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水大約二分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ
水ヲ注キ全量二百分ニ至ラシムヘシ温湯ヲ用フレハ其溶解殊ニ速カナリ但衣類等
ニ使用スルヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ更ニ鹽酸若クハ酒石酸四分ヲ加ヘ使用スル
トキハ其効著シトス

乙昇汞水(千倍)昇汞一分鹽酸五分
水九百九十四分

昇汞水ハ價廉ニシテ消毒ノ効著シキモ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ
易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際十分ノ注意ヲ加ヘ又其危險ヲ防カンカ爲メ本品百
分ニ硫酸銅一分ヲ加ヘテ藍色ト爲スカ又昇汞ノ効ヲ失ハサル色素ヲ加ヘテ著色シ
一見識別シ易カラシムルヲ要ス

又本品ハ飲食器玩具及ヒ飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒ニ用フヘカラス金屬若ク
ハ糞便中ノ成分ニ逢フトキハ分解又ハ凝結シテ其効力ヲ失フノ虞アルヲ以テ金屬
製器糞便及ヒ吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス又金屬製器ニ貯フヘカラス
本品ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒後使用スヘキ物品ヲ消毒シタルキハ必ス淨水ヲ
以テ數回洗滌スヘシ

甲乙兩種ノ消毒藥ニハ(劇しき藥ナリ飲むヘからず)ト票記スヘシ
丙 生石灰
石灰乳(十倍)生石灰一分、水九分

生石灰及ヒ石灰乳ハ虎列刺腸室扶斯等ノ病毒ヲ消滅スルノ効力アルモノナレハ吐
瀉物瀉下物下水芥溜等ノ消毒ニハ總テ之ヲ使用スルヲ良トス

生石灰又ハ石灰乳ヲ以テ吐瀉物瀉下物ヲ消毒スルニハ之ヲ入レテ能ク攪拌スヘシ
生石灰ハ石灰石ヲ燒キ製シタル塊ニシテ少量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ發シ崩壞スルモノ
ヲ用フヘシ(蛭灰又ハ通常ノ石灰ハ消毒ノ効ナシ)又石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生
石灰ヲ取リ九分ノ水ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ但石灰乳ハ成ルヘク用ニ臨テ之ヲ製シ
使用ノ際ハ毎回能ク攪拌スルヲ要ス

丁 格魯兒石灰水(即チ鹽化)格魯兒石灰五分
石灰水(十倍)水九十九分

格魯兒石灰水ハ便所下水芥溜床下及ヒ土間等ノ消毒ニ用フ
本品ハ用ニ臨テ製スルヲ可トス

○衛生

戊硫酸若クハ粗製硫酸同量ノ水ニ溶

硫酸若クハ粗製硫酸ハ石灰乳石炭酸水等ノ代用品トシテ糞池下水等ノ消毒ニ用

ルヲ得ヘシ但本品ハ強キ腐蝕性ヲ有スルヲ以テ之ヲ取扱フノ際能ク注意スヘシ

本品ヲ以テ糞池ヲ消毒スルニハ糞便ト同量ノ本品ヲ注テ攪拌スヘシ本品糞池ニ

沸騰シテ流溢スルノ恐アルヲ以テ其糞便多量ナル場合ニハ其幾分ヲ他器ニ分チテ

各別ニ消毒スルヲ可トス又本品ハ漆喰敵金屬製器ヲ損傷スルノ恐アルヲ以テ

糞池ノ周邊漆喰敵ナルトキハ消毒ノ際特ニ注意シ又金屬製器ニ容ルヘカラス

本品ヲ製スルニハ五十分ノ水ヲ取リ絶ヘス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫酸

若クハ粗製硫酸五十分ヲ注加シ製スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注加スヘカラス

消毒ノ方法

第一 患者

傳染病治癒シタルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル後直ニ

浴ヲ取ラシムヘシ

第二 死体

傳染病者ノ死体ハ其被服ニ消毒藥ヲ撒布シテ棺内ニ斂ムヘシ但成ルヘク火葬スル

ヲ良トス

第三 看病人其他病家ノ家人等

看病人其他病毒ニ汚染シタル病家ノ家人消毒法施行ニ從事シタル吏員人夫等ハ手

足ヲ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ消毒スヘシ但看病人吏員人夫等ハ豫メ爪ヲ剪リ其間

ニ污垢ナキ様注意シ置クヘシ

第四 患者死体等運搬器

患者死体等ヲ運搬シタル駕籠釣臺戸板ハ使用ノ都度周テク昇汞水又ハ石炭酸水ヲ

灌クヘシ

第五 便所芥溜下水等

虎列刺患者ノ吐瀉物腸窒扶斯赤痢患者ノ瀉下物ノ入タル便所ノ糞池大糞池肥料溜

等ニハ少ナクモ糞便ノ量十分一ノ石灰乳若クハ格魯兒石灰水此用量ハ最低度ヲ示

キニ過クルハ固ヲ灌キテ能ク攪拌シ其周圍ノ地面ニモ周テク右ノ消毒藥ヲ撒布ス

ヨリ妨ケナシ

ヘシ但此消毒法ヲ施行シタル糞池肥料溜等ノ糞便ニシテ爾後新タニ患者ノ吐瀉物

又ハ瀉下物ヲ混入セサルハ一周間ノ後普通ノ糞便同様肥料ニ供スルモ妨ケナク

又其便所ニ消毒後之ニ通フモ妨ケナシ

虎列刺患者ノ吐瀉セル土間ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ吐

瀉物ト共ニ表面ノ土ヲ掘リ取リテ之ヲ人家遠隔ノ地ニ埋ムルカ成ルヘクハ燒却シ

其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ投棄シタル芥溜ニハ其

部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ撒布シタル後塵芥ヲ尽ク取除キテ燒却シ

其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ

虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ混入シタル下水溝ニハ生石灰石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ
澀テ能ク攪拌シタル後多量ノ水ヲ澀テ疏通セシムヘシ

第六 衣服器具並敷物等

- 一 傳染病者ノ着用セル衣服及ヒ患者ノ用ニ供シタル臥具蚊帳飲食器藥用器玩具
其他患者ノ居室內ニアリタル諸器具ノ類
- 一 看病人其他病者ニ汚染セル病家ノ家人消毒法ノ施行ニ從事セル吏員人夫等ノ
着用セル衣服及ヒ手巾、足袋、靴、草履等
- 一 患者ノ居室內ニ用ヒタル疊、蓆、敷物等ニシテ消毒ヲ必要ト認メタルモノ
右ノ内衣服、臥具、蚊帳等總テ織物類ノ類ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但汚染甚タ
ク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良トス
- (一) 蒸熱 消毒スヘキ物品ニ應シ攝氏百度以上ノ熱湯ヲ
三十分乃至一時間以上周テ通セシム
- (二) 煮沸 熱湯中ニ三十分
時間以上煮沸ス
- (三) 石炭酸水浸漬 石炭酸水中ニ十二時間以上浸漬
シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス
- (四) 昇汞水浸漬 昇汞水中ニ十二時間以上浸漬シ
タル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス
- 陶器、金屬製器ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ
- (一) 石炭酸水拭淨 石炭酸水ヲ以テ拭淨シタル
後更ニ淨水ヲ以テ拭淨ス

(二) 乾布拭淨 屢々乾布ヲ交換シテ内外面ヲ能
ク拭擦シ其乾布ハ速ニ燒却ス

其他ハ濕熱、煮沸、石炭酸水、昇汞水、等ノ浸漬ヲ用フ但昇汞水ハ金屬製器ニ用フ
ヘカラス

木製器ニハ前二項ニ依リ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒
却スルヲ良トス

漆器ニハ石炭酸水又ハ乾布ヲ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

革製品ニハ石炭酸水ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

疊、蓆、絨織、段通ノ類ハ石炭酸水ヲ撒布シ然ル后日光大氣ニ曝シ乾燥セシムヘシ
但汚染甚シキモノ 例之ハ患者ノ吐瀉物、瀉下物ノ浸潤セルモノ、虎列刺發 八燒却ス
疹室扶斯瘡患者ノ病室內ニ敷キアリタルモノ、類

第七 患者ノ居室

傳染病者ノ居室其他消毒ヲ必要ト認メタル室ハ先ツ室内ノ疊、敷物ヲ揚ケ 此疊、敷
毒ハ前項ニ 室内各部床及ヒ床下ヲ掃除シテ其塵芥ヲ燒却シ 床及ヒ床下ニ吐瀉物
ハ格魯兒石灰水ヲ 掃除後昇汞水又ハ石炭酸水ヲ以テ室内各部ヲ拭淨スヘシ右ノ消
毒法ヲ了レル後ハ日光ノ射入、空氣ノ疎通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スルマテ家人
ノ起臥ヲ爲サシメサルヲ可トス但雨天ノ日ニ於テハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

第八 瀟車

虎列刺患者アリタル瀟車ノ車室ハ先ツ吐瀉物ヲシテ汎ク散漫セシメサル爲メ石灰、石炭、炭屑、灰、砂、錫屑等ヲ撒布シ之ヲ取り除キテ燒却シ車内ノ消毒ハ前項患者居室ノ消毒法ニ準スヘシ但車室ニ附屬スル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

第九 船舶

傳染病アリタル船舶ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但其船舶ハ消毒法ヲ行フニ先チ人家及ヒ他ノ船舶ニ隔タリタル場所ニ廻航セシムルヲ要ス

- 一 患者アリタル船舶ハ先ツ室内ノ臥具、戸張、敷物等ヲ取除キ第六項ニ依テ消毒シ室内各部ヲ掃除シ次ニ昇汞水又ハ石炭酸水ヲ周チク室内ニ撒布シテ後水ヲ以テ叮嚀ニ洗淨シ爲シ得可キタケ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄船客ヲ入ルヘカラス但時宜ニ依リテハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ
- 一 患者アリタル室ノ外ト雖モ病汚染ノ疑アル場所及ヒ不潔ノ場所ハ水ヲ以テ洗淨スヘシ
- 虎列刺ニ於テハ前二項ノ他尙ホ左ノ方法ヲ行フヘシ
- 一 患者ノ上リタル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ撒布シテ後水ヲ以テ十分ニ洗淨

スヘシ

- 一 吐瀉物滲漏ノ虞アルキハ消毒藥ヲ灌キ船底ニ溜留セル汚水ヲ排除シタル後水ヲ以テ之ヲ洗滌スヘシ
- 一 船中ノ飲用水ハ新鮮ノ良水ト交換シ其際充分ニ其貯器ヲ洗淨スヘシ

○訓令第二十號

明治二十三年八月十二日

郡市役所 町村役場

虎列刺病豫防法左ノ通相定係條右豫防法ニ依リ取扱フヘシ

虎列刺病豫防法

- 第一條 市町村ノ衛生主務吏員ハ虎列刺病者ヲ診斷セル旨醫師ノ通知ニ接シタルトキハ速ニ病家ニ臨ミ病室、器具、被服及ヒ便所等ノ消毒ヲ施行スル等相當ノ處分ヲ怠ラサルヘシ
- 前項醫師ノ通知ニ接セサルモ虎列刺病ニ疑ハシキ患者アルトキハ衛生主務吏員ハ醫師ヲシテ之ヲ診察セシメ其見込ニ從ヒ豫防消毒ノ處置ヲ爲スコト前項ノ如クスヘシ
- 第二條 虎列刺病者ノ自宅治療ヲ爲セル家ハ衛生主務吏員時々之ヲ巡視シテ豫防ノ方法ヲ守ルヤ否ニ注意シ又時宜ニ依リテハ人夫ヲシテ病毒ニ汚染セルモノヲ取り集メシメ消毒法ヲ施スヘシ
- 第三條 虎列刺病者治癒又ハ死亡シタルトキハ衛生主務吏員ハ患者ノ身体若クハ死

○衛生

- 屍、看病人、患者ノ居室其他病毒ニ汚染セル衣服、器具、等ニ消毒法ヲ行フヘシ
- 第四條 消毒法ノ實施ニ從事シタル吏員人夫等ハ其都度消毒法ヲ行ヒ又患者運搬器等モ使用シタル毎ニ消毒法ヲ施スヘシ
- 第五條 警察官吏ノ消毒ニ要スル藥品及器具ハ市町村設備ノモノヲ使用セシムヘシ
- 第六條 虎列刺病發生ノ初メニ於テ其蔓延ヲ防キ得ヘキト認ムルトキハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルコトアルヘシ
 - 一 該患者アリタル家一軒立ニ係ルトキハ一家ヲ遮斷ス但一家内ト雖凡別棟等判然區別スルヲ得ヘキトキハ其部分ノミヲ遮斷シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋狹矮ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルトキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ
 - 二 交通遮斷ヲ施行スルトキハ遮斷部分ノ區域ヲ明示シ醫師、掛吏員、人夫等職務上要用アル者ノ外他ト交通ヲ制止スルコト
 - 三 交通遮斷施行中ノ家ニ於ケル日用品買入等ノ用務ハ近隣ノ人又ハ適宜ノ取扱人ヲ定メテ之ヲ辨セシムルコト
 - 四 交通遮斷中ハ衛生主務吏員ニ於テ其區域内ノ清潔法等ニ注意スルハ勿論醫師ヲシテ區域内ノ各家ヲ巡診セシメ且ツ豫防法ヲ諭示セシムルコト
 - 五 患者治癒若クハ死亡シ又ハ患者ヲ避病院ニ隔離スル等遮斷區域内ノ患者全ク

- 絶テヨリ五日間ヲ經過スルモ新患者ヲ發生セサルハ遮斷ヲ解除スルコト
- 六 遮斷區域内ノ患者絶ヘサルモ區域外ニ患者ヲ發生シ病毒已ニ他方ニ及ヒタリト認ムルトキハ速ニ遮斷ヲ解除スルコト
- 第七條 交通遮斷區域内若クハ會テ虎列刺病ノ流行アリシ不潔ノ場所ニ於テハ左ノ方法ニ據リテ消毒の清潔法ヲ施行スヘシ
 - 一 下水ニハ先ツ生石灰又ハ石灰乳ヲ投シテ能ク攪拌シ次ニ多量ノ水ヲ以テ洗滌シ十分ニ疏通セシムルコト
 - 二 芥溜ノ塵芥ハ成ルヘク之ヲ燒却シ若シ燒却スルヲ得サル場合ニ於テハ石灰乳ヲ周テク撒布シテ他ノ無害ノ場所ニ運搬シ其取除キタル跡ニ生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト
 - 三 家屋ニハ左ノ方法ニ依リテ大掃除ヲ爲スコト
 - 一 家什ヲ出シ塵ヲ揚ケ建具ヲ外シテ室内ヲ掃除シ其器具、疊、建具等ハ日光、空氣ニ曝スコト
 - 二 床下ノ塵芥ヲ除去シ成ルヘク其跡ニ乾キタル土砂又ハ石灰ヲ撒布スルコト
 - 三 衣服臥具ハ殊ニ能ク日光、空氣ニ曝シ其汚レタルモノハ洗濯スルコト
- 第八條 醫師ヲシテ遮斷區域内ニ豫防法ヲ諭示セシムルトキハ前條ノ各項及飲食物ニ注意セシムヘシ

第九條 虎列刺病流行ノ虞アルトキハ其市町村又ハ郡ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スヘシ

一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ修理スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト

二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

第十條 前條ノ場合ニ於テハ郡市長ハ醫師、郡市町村吏等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ豫防消毒ノ事ヲ擔當セシムヘシ但豫防委員ヲ設ケタルトキハ速ニ縣廳ニ報告スヘシ

第十一條 郡市町村長其管轄内ニ虎列刺病發生シタルトキハ其豫防ヲ周到ナラシメ又有病地ノ病況ト豫防實施ノ景況トヲ具シ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ之ヲ知事ニ報告スヘシ

○訓令第二十五號

明治二十四年四月二日

娼妓梅毒院娼妓梅毒検査所

明治二十二年(三月)訓令第十九號娼妓梅毒検査所及梅毒院事務規定第十條ヲ左ノ通り改定ス

第十條 醫員ハ毎月第三號第四號書式ノ検査月表患者表ヲ調製シ翌月五日限り縣廳

ニ進達スヘシ

○縣令第二十號

明治二十四年五月六日

本年(五月)内務省令第三號ニ據リコソホ結核病治療液ヲ使用セントスル者ニシテ内務大臣ノ認可ヲ請フトキハ左ノ事項ヲ取調ヘ其書面ニ添付スヘシ

一 院長若クハ醫師ノ履歷

一 病室ノ數其廣狹及該患者ヲ入ルヘキ豫定數

一 助手及看護病人ノ數其每人ニ受持タシムヘキ患者ノ豫定數

但助手ハ履歷ノ概略ヲ添フヘシ

一 結核菌ヲ檢スルニ必要ナル顯微鏡ノ有無其他検査用ノ器具

○縣令第三十二號

明治二十五年六月二十五日

明治二十一年(一月)縣令第七號製氷及販賣取締規則左ノ通改正シ來八月一日ヨリ施行ス

製氷及販賣取締規則

第一條 飲料醫料其他雜用ニ供スル目的ヲ以テ凍氷ヲ製シ又ハ貯藏若クハ販賣セントスル者ハ凡テ本則ヲ遵守スヘシ

第二條 凍氷ヲ製シ又ハ貯藏セントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ毎年十月三十一日限リ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出該原水々質ノ検査ヲ受クヘシ其検査成績不良ナ

○衛生

ルモノハ凍水ヲ製スルコトヲ得ス但製氷場及貯藏場ニ充ツヘキ地所官有地ナルトキハ借地願濟指令寫民有地ニシテ他人ノ所有地ナルトキハ地主ノ承諾證ヲ添付シ自己ノ所有地ナルトキハ其旨ヲ記載スヘシ

一 製氷場及貯藏場ニ充ツヘキ場所並ニ其繪圖面

二 製氷及貯藏ノ方法

三 製氷場及貯藏場ノ構造方法

第三條 製氷場及貯藏場ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 製氷場及貯藏場ノ位置ハ墓地火葬場獸畜埋沒場下水等ニ接近セス且ツ田圃若クハ溝渠ヨリ高所ニシテ雨水又ハ汚水ノ浸入セサル地ニ限ルコト

二 水池ノ側圍及底部ハ石材煉瓦石（其接際ハ「セメント」「コンクリート」ノ類ヲ以テ密着セシモノ）漆喰敷キ又ハ厚板ヲ用ユルコト

三 各水池ノ底部ニハ適宜ノ場所ニ水吐キ口ヲ設ケ用水ノ更換ニ便ナラシムルコト

四 土地ノ狀況ニ由リ塵芥等ヲ吹キ入ル、ノ恐レアル方位ハ適宜ノ圍ヲ設クルコト

五 貯藏場ハ縱横適宜ニ土中ヲ掘込ミ四圍及底部ハ板若クハ石材煉瓦石ヲ以テ築造シ其上部ニ雨除ヲ設クヘシ若坑内堅牢ナル岩層ナルトキハ別ニ構造ヲ要セ

ト

ト

ト

ト

ト

ス又地盤上ニ尋常ノ土藏造板藏造ニ底板ヲ附シ建設スルモ妨ケナシ

六 貯藏場ノ底部ハ勾配ヲ附シ溶解水ノ滲溜セサル様裝置スヘシ

第四條 第二條ノ許可ヲ受ケタルモノ製氷場及貯藏場ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ其認可ヲ受ケサルモノハ使用スルコトヲ得ス

第五條 第二條ノ許可ヲ受ケタル製氷ヲ販賣セントスルトキハ貯藏ノ斤量ヲ記載シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出検査ヲ受クヘシ

第六條 販賣検査ヲ願出タルトキハ其氷質ヲ試験シ善良ト認ムルモノニ限り第一號ノ検査證ヲ下付シ其成績不良ナルモノハ一切之ヲ投棄セシム

第七條 水質氷質検査ノ期日及場所ハ其都府郡市役所ヨリ通達スヘシ

第八條 第七條ノ通達ヲ受ケタルトキハ水質ニハ其原水五合以上氷質ニハ氷塊五斤以上ヲ當日指定ノ場所ニ差出スヘシ但本條ノ手續ヲナサ、ルトキハ第二條ノ出願ハ無効トス

第九條 検査ニ供スヘキ製氷原水又ハ氷塊ヲ採取セントスルトキハ豫メ所轄警察官署ニ届出警察官吏ノ臨監ヲ受ケ其容器又ハ包布ニ封印ヲ受クヘシ

第十條 他府縣ヨリ輸入ノ製氷ヲ販賣セントスル者ハ該管轄廳ノ許可證ヲ添ヘ第六條ノ手續ヲ爲スヘシ但検査用トシテ其氷塊五斤以上ヲ直ニ縣廳ニ差出スヘシ

第十一條 製氷貯藏場ニハ第二號ノ標札貯藏場外ニ於テ販賣セントスルトキハ第三

號ノ標札ヲ製シ所轄警察官署ニ願出檢印ヲ受ケ掲出スヘシ但製氷人ニアラスシテ
 卸小賣ヲナス者ハ第四號ノ標札ヲ製シ本條ノ手續ヲ經テ店頭ニ掲出スヘシ
 第十二條 製氷ヲ行商セントスル者ハ第五號ノ標札ヲ製シ所轄警察官署ニ願出檢印
 ヲ受ケ氷塊容器ノ表面ニ附着スヘシ但氷塊ハ清潔ナル毛布又ハ綿布ニ包裹シ清淨
 ナル器物ニ容ルヘシ
 第十三條 第十一條第十二條ノ標札ハ十一月三十日限り所轄警察官署ニ差出し消印
 ヲ受クヘシ
 第十四條 製氷貯藏場及販賣免許期限ハ十二月一日ヨリ翌年十一月三十日マテトス
 第十五條 製氷人轉居改氏名廢業死亡若クハ製氷場貯藏場ヲ貸借讓與シタルトキハ
 双方連署ノ上五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ卸小賣及行商人轉居改氏名廢
 業死亡シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ但本條ノ場合ニ於テハ標
 札ハ第十一條第十二條ノ規定ニ從ヒ書換檢印ヲ受ケ廢業死亡ニ係ルモノハ消印ヲ
 受クヘシ
 前項ノ死亡ニ係ル届出及消印ハ戶主之ヲ爲スヘシ戶主未定又ハ不在ナルトキハ死
 者ノ相續者相續者未定又ハ不在ナルトキハ其家族又ハ後事ヲ擔當スルモノニ於テ
 之ヲ爲スヘシ
 第十六條 製氷及販賣許可ヲ受ケタル者死亡シタル後其家族又ハ後事ヲ擔當スル者

ニ於テ引續キ營業セントスルトキハ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ
 第十七條 鹽濟ノ製氷ト雖モ臨時檢査ヲ行ヒ不潔又ハ有害ト認ムルトキハ販賣ヲ
 禁シ現品ヲ投棄セシムルコトアルヘシ
 第十八條 第一條ノ目的ヲ以テ雪ヲ貯藏販賣セントスルモノモ亦本則ヲ遵守スヘシ
 第十九條 第二條第四條第五條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條
 ヲ犯シタル者ハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科
 料ニ處ス

第一號 鑿六寸五分
 横五寸五分

製氷檢査證

製造場	製氷人
貯藏場	番地
成分	
清濁	
色	
反應	
格魯兒	
硫酸	

衛生

土類	
硝酸	
亞硝酸	
安母尼亞	
有機物	

右ノ成績ナルヲ以テ飲料ニ害ナキヲ證ス

明治 年 月 日

宮城縣

第二號 第一尺八寸 第三號 第四號之ニ同シ 第三號

第何號 郡市町村番地
製氷人 氏 名

○製氷貯造場

年月日

警察官署烙印方一寸五分
以下寸法之ニ同シ

第何號 郡市町村番地
製氷人 氏 名

○何地製氷賣捌所

年月日

警察官署烙印

第四號

第何號 郡市町村番地
製氷人 氏 名

○何地製氷御小賣所

年月日

警察官署烙印

第何號 郡市町村番地
製氷行商人 氏 名

○製氷行商鑑札

何地製氷
郡市町村番地
製氷人 氏 名

生年月 名

○何警察署 (分署)

警察官署烙印

○衛生

○縣令第二十六號

明治二十六年三月二十九日

鑛泉浴場及販賣取締規則左ノ通定ム但明治二十六年六月一日ヨリ施行ス

鑛泉浴場及販賣取締規則

第一章 鑛泉浴場

- 第一條 鑛泉浴場ヲ開設シ營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ但分拆試驗ヲ要スル者ハ鑛泉三升以上ヲ差出スヘシ
- 一 鑛泉發見年月日及其發見者氏名
- 二 鑛泉冷温ノ區別及其温度
- 三 但俗稱スル處ノ効能
- 四 鑛泉湧出地名其略圖
- 五 浴場官有地若クハ他人ノ所有地ナルトキハ其借地證
- 六 浴場仕様書及其圖面
- 第二條 前條試驗用ノ鑛泉ヲ採取スル者ハ所轄警察官署ニ届出臨檢ヲ受クヘシ但鑛泉容器ハ硝子瓶若クハ陶器ニシテ該泉ヲ以テ再三洗滌ノ後泉中ニ没入シ鑛泉ノ充滿シタルキ(キルツク)ヲ以テ栓ヲナシ之ヲ引揚ケ封緘又ハ熱脂ヲ以テ密閉スヘシ
- 第三條 他ノ營業者ノ鑛泉ヲ分用シ浴場ヲ開設シ營業ヲ爲サントスル者ハ第一條第

五項第六項ヲ詳記シ原泉營業者連署ノ上所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ

第四條 數人共同營業ニ係ル者ハ營業者中管理者ヲ定メ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ但連署ヲ要ス

第五條 營業者改氏名廢業又ハ浴場賣買讓渡シ若クハ管理者ヲ變更シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第六條 浴場構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ但土地ノ狀況ニヨリ斟酌スルコトアルヘシ

- 一 浴槽ハ石材煉瓦又ハ厚板ヲ以テ築造スルコト
- 二 浴槽ノ周圍ハ石材煉瓦又ハ厚板ヲ敷詰メ汚水不潔物ハ浴場外ニ排除スヘキ裝置ヲナスコト
- 三 鑛泉ヲ浴槽ニ導クトキ其樋管ハ不滲透質ノモノヲ選用スルコト
- 四 浴場ハ開閉自在ナル窓數箇ヲ設ケ空氣ノ流通ヲ便ニスルコト
- 五 浴室ハ外部ヨリ見透サ、ル様構造スルコト
- 六 浴室ニハ脱衣場ヲ設ケ他人ノ衣類ト混同セサル様裝置ヲナスコト
- 七 火温ヲ要スル浴場ハ煤烟ノ浴室ニ侵入セサル様裝置ヲナスコト
- 第七條 前條ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出檢査ヲ受クヘシ其檢査ヲ受ケサルモノハ開場スルコトヲ得ス

第八條 浴場ヲ改造變更又ハ増設セントスルトキハ仕様書及圖面ヲ添へ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ但落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ

第九條 浴場破損ヲ生シタルトキハ速ニ修理ヲ加フヘシ

第十條 浴場及鑛泉湧出地ヲ距ル五間以内ニ厠間芥溜畜舍等ヲ設ケ又ハ不潔物ヲ置クヘカラス

第十一條 浴場内外ハ日常清潔ニ掃除ヲナスヘシ

第十二條 浴槽内ニ於テ衣類其他不潔物ヲ洗滌スヘカラス

第十三條 浴場内外ニハ日没ヨリ日出マテ點燈スヘシ

第十四條 看護人ナキ危険ト見認ムル病者及亂醉者ハ入浴セシムヘカラス

第十五條 浴場ニハ泉質効能浴法用法及第十二條第十四條ノ規定ヲ揭示スヘシ

第十六條 營業者ハ每一ケ年間ノ浴客數及其延人數ヲ翌年一月十五日マテ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第二章 鑛泉販賣

第十七條 浴用又ハ飲用ノ爲メ鑛泉ヲ販賣セントスル者ハ本則第一條ノ規定(第五項第六項ヲ除ク)ニ從ヒ免許ヲ受クヘシ

第十八條 鑛泉容器ニハ泉名効能用法及販賣人ノ住所氏名ヲ記載シタル標章ヲ貼付

スヘシ

第十九條 販賣營業者改氏名廢業又ハ賣買讓渡シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ但賣買讓渡ニ係ルモノハ双方連署ヲ要ス

第三章 罰則

第二十條 第一條第三條第六條第七條第十七條ヲ犯シタルモノハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 第四條第五條第八條第九條第十條第十二條第十三條第十四條第十八條ヲ犯シタルモノ及ヒ第十一條第十五條ニ違ヒ督促ニ從ハサルモノハ一日以上七日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓貳十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

一 從來鑛泉浴場ヲ設ケ營業ヲ爲スモノ及鑛泉販賣者ハ其泉名冷温ノ區別其温度効能湧出地名圖面(浴場營業者ハ浴場ノ圖面共)ヲ添へ明治二十六年六月一日限リ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ但共同浴場ニ係ルモノハ管理人ヲ選定スヘシ

二 從來ノ鑛泉浴場ニシテ本則ノ構造ニ適セサルモノハ明治二十七年三月三十一日限リ改造シ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ

○縣令第二十八號 明治二十七年七月七日

醫師黒死病「ベスト」又ハ之ニ類似スル患者ヲ診察シタルトキハ即時書面又ハ口頭ヲ以テ最寄警察署分署巡査駐在所又ハ郡市役所町村役場へ届出ヘシ
本令ニ違フ者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス又ハ五十圓以上一圓九十五圓以下ノ科料ニ處ス

○訓令第二十七號
明治二十七年七月七日 郡市役所 町村役場
醫師ヨリ黒死病又ハ之ニ類似スル患者ヲ診察シタル旨届出アルトキハ迅速ニ報告シ併テ其地所轄ノ警察署又警察分署ニ通知スヘシ其町村役場ニ在リテハ郡市役場ニモ通知スヘシ

前項ノ患者アルトキハ明治二十三年第三十四號省令傳染病豫防規則第一條第三項ニ依リ豫防法施行シ其消毒方等ハ虎列拉病及ヒ發疹室扶私病ノ例ニ依ルヘシ

○訓令第三十二號
明治二十七年十月二十九日 市役所 町村役場
天然痘ノ怖ルヘキハ今敢テ謂フヲ要セス而テ種痘ハ之レカ豫防上最良ノ手段タルニ拘ラス年々患者ノ跡ヲ絶タスシテ昨二十六年ノ如キハ患者總數四百五十五名内死亡百九名ノ多キヲ見タリ是レ畢竟種痘法施行ノ周到セサルモノアルニ由ルニ謂ハサルヲ得ス殊ニ是迄本病ニ侵サル、者ヲ見ルニ十五年未滿ノ幼者ヨリハ寧ろ三十年前後壯年ノ者ニ多キヲ例トス斯ノ如キハ皆ナ接種後多クノ年所ヲ經過シテ復タ種痘ノ必要アルヲ知ラサルト再三種ノ行届カサルモノアルトニ因ルナルヘシ本年ニ至リテ

ハ幸ニ未タ昨年ノ如キ多數ヲ見スト雖トモ之ヲ既往ニ徴スルニ本病ハ毎年十一月頃ヨリ流行ノ兆ヲ顯ハシ十二月ニハ稍々蔓延シ翌年一二三月ニ至リ病勢最モ猖獗ヲ極ムルヲ常トス故ニ之ヲ其ノ未タ流行セサルニ先テ豫防スルハ今日ヲ以テ最モ緊要ノ時ト爲ス依テ此際種痘名簿ヲ最モ精確ニ調整シテ精々種痘ノ普及ヲ奨励シ初種再三種ニ該ルモノハ勿論其他種痘後多ク歳月ヲ經タル者ハ漏レナク接種セシメ本病ヲ未然ニ防遏スル様取計フヘシ

○稅務

○甲第六十七號

明治十四年四月十五日

酒造營業人ニシテ番麴兼業不相成備ハ勿論ノ處右營業者ノ家族他郡他村ニ別戸ヲ立テ其別戸人ヨリ成規ノ通出願ノ者ハ營業許可可致候條此旨布達候事
但本文抵觸ノ旨指令ハ取消候事

○甲第九十號

明治十五年八月七日

水車ノ義ハ許可ヲ經ス設置候義ハ不相成候條此旨布達候事

○甲第三十五號

明治十六年四月二十四日

賣藥營業者心得左ノ通相定候條此旨布達候事

賣藥營業者心得

廿年六月
縣令第六十
號ヲ以テ第
五項中及第
七項並ニ第
一第二書式
追加ス
卅三年(四
月)縣令第
二十二號ヲ
以テ第八項
追加

- 第一項 凡賣藥營業ヲ爲スモノハ明治十年第七號賣藥規則及十五年第五十一號布告賣藥印紙稅規則ニ遵フヘシ
- 第二項 製造藥品裝置ノ分ハ印紙稅規則第一條及第三條ニ依リ總テ印紙貼用消印シ置クヘシ
- 第三項 賣藥印紙貼用方検査トシテ主任官隨時出張スヘキニ付營業上ニ關スル諸牒簿等點檢ヲ要スルトキハ速ニ差出シ検査ヲ受クヘシ
- 第四項 検査ノ際營業者疾病事故アルキハ營業上熟知ノ代理人ヲシテ諸事明瞭ニ答辨セシムヘシ
- 第五項 營業者ハ左ニ掲クル諸帳簿ヲ整備シ賣藥製造高及賣捌高等左ノ第一號書式ニ依リ詳細記入シ置クヘシ
- 賣藥製造元帳 賣藥賣捌帳 賣藥印紙受拂帳
- 第六項 検査ノ際製藥場及藥品貯藏ノ場所ハ勿論時宜ニ依リ倉庫納屋及室内タリト雖凡點檢スルコトアルヘシ
- 第七項 賣藥受賣者ハ第一項第二項第三項第四項第六項ヲ適用シ第二號書式ニ據リ帳簿ヲ調製スヘシ
- 第八項 賣藥營業者ハ印紙買入帳ヲ調製シ買入ノ時々之ヲ携帯シ印紙賣捌人ヲシテ該帳簿ニ印紙ノ種類枚數賣渡ノ年月日及住所氏名ヲ記載捺印セシムヘシ

第一號書式

賣藥製造元帳

國郡區村番地	
賣藥製造人	何
	某

- 何月何日製造 藥劑一分量ノ何倍
- 一何藥 何百個
- 何年何月製造 何錢賣
- 一何藥 全一分量ノ何分
- 內 何百個
- 何個 何錢賣
- 何個 何錢賣
- 何月何日戻入再製 何百個
- 一何藥

○稅務

内	何個	何錢賣
内	何個	何錢賣
但交換又ハ在來ノ分再製スル時ハ廉限リ右ニ準シ記入ス可シ		
合計何百何十個		
内	何百個	何錢賣
	何百個	何錢賣
	何十個	何錢賣
但毎月合計ヲ付シニヶ月目ヨリ通計ヲ付スヘシ		
賣藥賣捌帳		
國郡區町番地		
賣藥製造人		
何		
某		
何月何日		

一何藥	何十個	何錢賣
何月何日		
一何藥	何十個	何錢賣
合計何百何十個		
内	何個	何錢賣
	何個	何錢賣
外	何十個	交換並戻入ノ分
内	何十個	何錢賣
	何十個	何錢賣
	何十個	戻入再製ノ分
内	何十個	何錢賣
○稅務		

何十個

何錢賣

但毎月合計ヲ付シニケ月目ヨリ通計ヲ付スヘシ

賣藥印紙受拂帳
國郡區村番地
賣藥製造人
何 某

買入ノ部

國郡區(町村)番地

印紙賣捌人

何

某

何月何日

一角形何錢印紙

何百枚

此代金何拾何錢

何月何日

一長形何錢印紙

何百枚

此代金何圓何拾錢

以下右ニ準シ記入ス可シ

合計何百枚

此代金何拾何圓何拾錢

内

何錢印紙

何百枚

此金何圓何拾錢

何錢印紙

何百枚

此金何圓何拾錢

毎月合計ヲ付シニケ月目ヨリ通計ヲ付スヘシ

使用ノ部

何月何日

一角形何錢印紙

何百枚

此金何拾錢

何月何日

一同何錢印紙

何百枚

此金何拾錢

合計何百枚

此金何拾何圓

内

何錢印紙

何百枚

此金何圓何拾錢

每月合計ヲ付シニケ月目ヨリ通計ヲ付スヘシ

第二號書式

賣藥買入帳

國郡區町村番地
賣藥受賣人

何 某

國郡區(町村)番地
賣藥製造人又ハ行商人

何 某

何月何日

何十個

一何藥

但何錢賣

何月何日

右同人

一何藥

何十個

内

何十個

何錢賣

何十個

何錢賣

合計何十何個

内何十何個

何月中賣捌

(戻賣アルキハ前項ニ倣ヒ併記スヘシ)

殘

何十何個

營業人ノ便宜ニヨリ各種類口分ヲ爲シ記載スルモ妨ケナシ

○乙第四十二號

明治十六年八月七日

郡區町村

國稅ニ關スル諸稅檢査トシテ官員出張巡回ノ節立會ヲ請フキハ戶長(區ハ書記)ハ速ニ立會ヲ爲スヘシ此旨相達候事

廿一年(二
月)縣令第
十四號ヲ以
テ更正

○稅務

○甲第九十六號

明治十六年十二月二十一日

舊勳請賣者取締規則左ノ通相定メ明治十七年一月一日ヨリ施行ス
但諸帳簿及現品ハ主任官隨時検査スルコトアルヘシ

舊勳請賣者取締規則

第一條 舊勳請賣營業者ハ十月ヨリ翌年九月迄ヲ一期トシ左ノ帳簿ヲ整備スヘシ

一 舊勳仕入帳

一 舊勳賣捌帳

第二條 仕入ノ節ハ其石數並仕入元製造者住所氏名及年月日ヲ其都度帳簿ニ記載シ置クヘシ

第三條 賣捌ノ節ハ其石數並購求者住所氏名及年月日ヲ帳簿ニ記載シ置クヘシ
第四條 營業者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲示スヘシ

堅三尺

舊勳受賣所 氏名
寸八巾

廿一年(三月)縣令第三十八號ヲ以テ改正

廿二年(四月)縣令第五十五號ヲ以テ改正

右布達候事

○甲第二十三號

明治十七年四月八日

日本形積石五十石未滿ノ船並解漁船小廻船遊船ノ鑑札ハ該船ノ臈外部後面ニ釘付スヘシ

右布達候事

○乙第四號

明治十八年一月二十三日

郡區町村

地租ニ關スル諸帳簿様式別冊ノ通相定候條此旨相達候事

戶長役場ノ分

一 土地臺帳

(第一號様式)

是ハ土地ノ沿革及ヒ反別地價地租等ヲ明ニスルノ基礎ニ供フ

一 土地所有者名寄帳

是ハ一人限其所有地々目反別地價地租ヲ列記シ各人ノ納租額ヲ明ニス

一 地租延納年賦金臺帳

是ハ土地一筆限リ負擔ノ延納高ヲ所有者一人限リ列記シ當初ノ原額及ヒ年々

廿年(一月)縣令第五號ヲ以テ甲號ヲ乙號ニ改ス

○稅務

廿六年(二)
月(訓)令第
十六號ヲ以
テ第六號ヲ
式改正
式改正

府縣郡市町村大字番地		何ノ誰		明治何年全	部	何ノ誰
明治年	月日	代替	何ノ誰	月日買受	部	何ノ誰
地目	地目	何番	何番	價地租	筆額	摘要
田	田	何番	何番	反別地	每期納算出ノ差	
				五〇〇〇〇	一	
				一〇五,〇五	一	
				二六,三〇	一	
				三〇〇	一	
				一七〇,〇〇〇	一	
				一三三,〇五	二	
				三三,〇五	一	
				七五〇	一	
				一〇〇〇	一	
				〇五,〇〇〇	一	
				一八七五	一	
				三二,九三	二	
				二七,〇五	二	
				五,〇〇〇	二	
現在額						
買得						
買渡						
現在額						

二百五十八

凡例

- 一本帳調製ノ際ハ現今ノ名寄帳合計額ヲ轉記シ之ヲ現在額トナスコトヲ得
- 一本帳ハ、田、畑、(郡村市街)宅地、雜地租(鹽田以下)ノ四種ニ區分合計ヲ附スルモノトス
- 一賣買等數筆ニ涉ルトキハ同小字ニ限リ合記スルモ妨ナシ此場合ニ於テハ摘要ノ欄ニ地番號ヲ記入スルモノトス
- 一每期納額ノ欄ニハ田租ナレハ四分ノ一畑租以下ナレハ二分ノ一ヲ掲記スルモノトス
- 一算出差ノ欄ニハ末期ニ於テ減スヘキ員額ヲ掲記スルモノトス
- 一氏名ノ肩又ハ上欄ニ示セル住所ノ記載例ハ管内ノモノハ縣名ヲ除キ其(郡市)内ニシテ他町村ノモノハ(郡市)名ヲ除キ同(町村)ノモノハ(府縣)(郡市)(町村)名ヲ記載スルニ及ハス
- 一増減ハ増ハ墨書シ減ハ朱書スヘシ

○稅務

二百五十九

裏面略圖

郡區役所	明治年月日	何縣府
印		府廳
		縣印

一營業二種以上ヲ兼スルトキハ(イ)符合ノ個所ニ其兼業名ヲ朱記スヘシ例ハ製造卸賣及小賣ノ業ヲ兼スルトキハ製造鑑札ニハ卸賣兼業ト記シ卸賣鑑札ニハ製造小賣兼業ト記載スルカ如シ

一露店又ハ呼賣ヲ業トナスモノニ下付スルトキハ鑑札用紙(ロ)符號ノ個所ニ(露店)又ハ(呼賣)ト朱書スヘシ

一營業場營業者住所地下異ナルトキハ(ハ)符號ノ個所ニ(營業場何縣何區何町何番地)ト記入スヘシ

第二號雛形

表	裏
番號	明治何年何月
菓子(仕入)鑑札	何縣府
何郡何町何番地	何縣府
製造卸賣小賣人何ノ誰	何縣府
携帶人	何縣府
姓	何縣府
名	何縣府

○甲第九十五號 明治十八年十二月二十一日

醫藥營業者一期製成見込石高ハ免許後五日以内所轄租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ但見込石高ヲ増減スルキハ其都度届出ヘシ

○甲第四號 明治十九年一月二十八日

酒類受賣者取締規則左ノ通相定ム

廿三年(十
四月)告示
第一四八號
所及派出所
ヲ以テ出張
ヲ止セラレ
タルヲ以テ
間分署ニ
差出ス事ト
ナレリ
以下皆同

○稅務

廿二年(四月)縣令第
三六號ヲ
以テ第五
條ヲ改正ス

酒類受賣者取締規則

- 第一條 酒類受賣ヲ爲ス者ハ仕入帳ヲ製シ置キ仕入ヲ爲ストキハ其石數年月日及び製造者ノ住所姓名ヲ記載スヘシ
- 第二條 前條賣買ニ關スル仕切書送狀等ハ之ヲ保存シ置クヘシ
- 第三條 酒類製造營業人ハ御賣帳ヲ製シ置キ酒類受賣者ニ御賣ヲ爲ス時ハ其石數年月日及受賣人ノ住所姓名ヲ記載スヘシ
- 第四條 前條ノ帳簿證書ハ検査官隨時検査スルコトアルヘシ
- 第五條 本則第一條第二條第三條ヲ犯シタル者ハ刑罰第四百二十七條ニ照シ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 丙第八號 明治十九年三月十三日 郡區
菓子營業者雇人ノ減員アルトキハ其時々届出サシメ尋帳ヲ更正スヘシ
- 乙第二十一號 明治十九年四月十七日 郡區町村
郡區長ヨリ戸長ニ對シテ徵稅令書ヲ發シタル後減額ノ爲メ金額ノ訂正ヲ要スル時ハ左ノ手續ニ依リ取扱フ義ト心得ヘシ
- 一 徵稅令書發布後ニ於テ減額ヲ生シタル時ハ郡區長ヨリ其通報書ヲ戸長ニ發スヘシ
- 二 前項ノ場合ニ於テ戸長ハ本年(四月)乙第十四號達書式第一號第三例不納ノ例ニ

廿年(九月)縣令第
七十一號ヲ以テ標
札式改正ス

- 準シ上納書ニ減額ノ金額ヲ掲ケ減額報告書ト爲シテ金庫ヘ送付スヘシ
- 三 不納並減額共ニ報告ヲ要スル時ハ上納書不納並減額ヲ合計シタル金額ヲ掲ケ不納並減額報告書ト爲シテ金庫ヘ送付スヘシ
- 縣令第二十八號 明治十九年九月二十八日
大藏省令第二十七號ニ據リ自家用料酒製造者ノ免許屆書式並ニ標札書式左ノ通之ヲ定ム

免許屆書式

自家用料酒製造御届

一 何酒製成高何斗何升

右ハ明治何年度一期自家用料酒製造仕候間免許鑑札御渡被下度候也

年月日

郡區町村番地

姓名印

數名連署スルモ妨ケナシ

郡區長宛

右相違無之候也

戸長 姓名印

標札用式(木製堅一尺二寸巾四寸五分)

○稅務

明治何年度

自家用料何酒何斗何升製造

町村

姓名

○訓令第十號

明治二十年二月五日

郡區町村

租税不納者公賣處分ノ際公賣スヘキ物件ニ關シ債主ノ有無取調方ヲ要スルキハ該財產所轄ノ登記所ヘ照會シテ其取調ヲ爲スヘシ

○縣令第二十五號

明治二十年三月四日

賣藥印紙交換規則ニ準シ賣藥行商人本縣管内ニ於テ賣藥ヲ毀却シ其印紙交換ヲ請ハントスルモノハ左式ノ願書三通ニ其毀却スヘキ賣藥ヲ添ヘ租稅検査員派出所ニ差出シ其證明ヲ受クヘシ書式

賣藥毀却御證明願

一何藥

何貼

此既貼印紙

何枚

○稅務

此金

(以下賣藥ノ種類毎ニ此式ニ依リ記載スヘシ)

合計

何貼

此既貼印紙

何枚

此金

内譯

何程

何厘印紙

何枚

此金

何錢印紙

何程

此金

何程

右賣藥性効ヲ失シ候ニ付毀却ノ上印紙交換素願度候條御検査相成御證明被下度此段相願候也

何(府縣)何國何(郡區)何(町村)何番地

賣藥營業人何某行商人

當時何(郡區)何(町村)何番地何某方止宿

何 某印

年月日

某租稅検査員派出所宛

○縣令第四十七號

明治二十年五月十九日

本年(五月)大藏省令第八號所得稅法施行細則第十二條ニ其キ調査委員選舉細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

所得稅調査委員選舉細則

第一條 各郡市役所々轄内調査委員及補欠員ノ數ハ左ノ如シ

仙臺 宮城 名取 遠田 栗原 登米 本吉 桃生 牡鹿

以上ノ一市八郡

調査委員

七名

補欠員

五名

志田 玉造 黒川 加美 柴田 刈田 伊具 亘理

以上ノ八郡

調査委員

五名

補欠員

三名

第二條 調査委員ヲ選舉スルキハ郡區長豫メ投票ヲナス可キ日ト場所トヲ定メ十日以前ニ之ヲ郡區内町村選舉人ニ告示ス可シ

第三條 町村選舉人ハ豫メ郡區長ヨリ附與シタル投票用紙ニ自己及被選人ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ差出ス可シ

廿七年(四
月)縣令第
十六號ヲ以
テ第一條改
正

第四條 郡區長ハ豫定ノ日選舉人ノ面前ニ於テ投票ヲ開キ選舉會中ノ取締ヲナスヘシ

第五條 當選人ハ投票ノ多數ヲ得タル者トス若シ同數ナルキハ年長ヲ取り同年ナレハ闖ヲ以テ之ヲ定ム但郡區長ハ其姓名ヲ郡區内ニ告示ス可シ

第六條 補欠員ノ選舉ハ調査委員選定ノ後十日以内ニ第二條乃至第五條ノ手續ニヨリ之ヲ施行ス可シ

第七條 補欠員ヲ以テ調査委員ノ欠ヲ補フノ順次ハ其投票ノ多數ニ依ルヘシ

○縣令第四十八號 明治二十年五月十九日

本年(五月)大藏省令第八號所得稅法施行細則第十二條ニ其キ調査委員會細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

所得稅調査委員會細則

第一條 調査委員會ハ毎年七月之ヲ開ク其會期ハ十日以内トス但會期內ニ議了スルヲ得サルトキハ郡區長ヨリ知事ニ具狀シテ延期ヲ請フコトヲ得

第二條 調査委員會ハ郡區役所内ニ於テ之ヲ開ク

第三條 調査委員會ハ傍聴ヲ許サス

第四條 調査委員會ノ議事ハ筆記スヘカラス

第五條 調査委員會ノ議事細則ヲ設ケントスルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

○稅務

附則

本年ニ限リ第一條ノ會期ハ追テ之ヲ定ム

○訓令第六十二號

明治二十年六月二十八日

郡區

明治十八年(十一月)收第八七二一號達國稅臺帳樣式中へ所得稅臺帳樣式別冊ノ追追加ス

但別冊ハ別ニ頒ツ

○訓令第六十四號

明治二十年七月一日

郡區町村

國稅地方稅ヲ納ムル營業人ニシテ檢査ヲ受ケタル帳簿ハ(期限アルモノヲ除ク)滿二ケ年間保存ス可シ

○訓令第八十二號

明治二十年十一月十八日

郡區町村

租稅不納ニ係ル物件ニ關シ賣買讓與等總テ所有權ノ移轉ニ付登記ノ有無ヲ取調フルトキハ其物件所在地所管ノ登記所ニ照會取調ヘシ

○縣令第九十一號

明治二十年十二月十四日

車類ノ供用ヲ變更シ若クハ賣買讓與解撤亡失シ或ハ檢印ヲ磨滅毀損シタルキハ左ノ各項ニ從ヒ届出檢印ヲ受ケ又ハ車籍ノ加除ヲ請フ可シ
第一項 免稅車及非常專用等ノ車ヲ普通ノ用途ニ供使セントスルキハ郡區役所ニ届出更ニ檢印ヲ受クヘシ

第二項 馬車一匹立ヲ二匹立ニ兼用セントスルキハ郡區役所へ届出更ニ馬車二匹立ノ檢印ヲ受ク可シ

第三項 普通荷臺ノ外別ニ積載ノ場所ヲ架設シ其坪數ヲ增加使用セントスルキハ郡區役所ニ届出更ニ檢印ヲ受ク可シ

第四項 車体ノ檢印ヲ磨滅毀損シ若クハ左ノ場合ニ係リタルキハ速ニ郡區役所ニ届出檢印ヲ受ク可シ

一 車類ヲ變更シタルキ

一 馬車馬ノ匹數ヲ増減シタルキ

一 車ニ修繕ヲ加ヘ税金ニ差異ヲ生シタルキ

第五項 車ヲ解撤シ又ハ之ヲ亡失シ若クハ其所在ヲ發見シタルトキ並ニ改姓名代替轉居シタルキハ其始末ヲ詳記シ速ニ郡區役所ニ届出ツ可シ

第六項 車ヲ賣却シ又ハ讓渡シタルキハ其買受人又ハ讓受人連署所轄關稅分署へ届出可シ

但其所轄ヲ異ニスルキハ買受人讓受人所在ノ關稅分署ニ届出ツ可シ

○訓令第九十一號 明治二十年十二月十四日 郡區
車稅規則取扱手續ヲ改ムルコト左ノ如シ

○稅務

車稅規則取扱手續

- 第一項 凡ノ物品運搬ノ用ニ供使スル事ハ總テ稅則第一則第七項第八項ニ準シ其稅ヲ徵收ス可シ
- 第二項 稅則第五則ノ耕作一途用車トハ稅則第一則第三項第六項第七項第八項ノ諸車ニシテ農家ニ於テ農具種子肥料農芥收穫物ヲ運搬スル自家ノ所用ニ限ルモノヲ云フ
- 第三項 耕作一途用車ト雖モ前第二項ニ掲クル物品ヲ販賣ノ爲メ運搬スルモノハ免稅ノ限ニアラス
- 第四項 耕作一途用車ノ外左ノ場合ニ供使スルモノハ其用途ヲ檢定シ免稅ノ取扱ヲ爲ス可シ
 - 一 非常專用ノ車
 - 一 郵便物遞送ニ專用スル車ニシテ遞信省ノ指定ニ據リ構造スルモノ
 - 一 公立幼稚園所屬ノ車ニシテ育兒ノ用ニ供スルモノ
 - 一 避病院所屬ノ車ニシテ傳染病患者消毒藥品若シクハ死体汚穢物ヲ運搬スルモノ
- 第五項 製造所若シクハ鑛山借區内ノ如キ一場内ニ專用スルモノ又ハ祭典專用ノ山車ノ如キハ課稅ノ限ニアラス

廿一年(二)月廿一日
改正 訓令第...
第十號ヲ以テ

- 第六項 馬車荷積馬車人力車牛車荷積車ノ各類中其車類ヲ變更シ若シクハ其一類中馬車馬ノ匹數人力車乘蓋ノ横巾(曲尺二尺未滿ヲ二尺以上ニ改造スルノ類)荷積車ノ坪數(曲尺十四坪未滿ヲ十四坪以上ニ改造スルノ類)ヲ増加シテ稅金ニ差ヲ生シタルキハ該期ヨリ其増差ニ係ル金額ヲ徵收ス可シ
- 第七項 車ノ檢印ヲ爲スキハ稅則第一則ノ各類ニ從ヒ第一號ヨリ逐次其番號ヲ附記ス可シ

但再記スルキハ舊番號ハ之ヲ缺號トナス可シ

- 第八項 他ノ郡區ニ係ル買受讓受ノ届出アルキハ蓋帳ニ登記シ速カニ其旨ヲ賣拂人若クハ讓渡人居住ノ郡區役所ヘ報道ス可シ

○縣令第四十六號 明治二十一年六月九日

煙草營業者心得ヲ改ムルヲ左ノ如シ但來七月一日ヨリ施行ス

煙草營業者心得

- 第一條 稅則第四條ノ仕入出賣鑑札ヲ受クルキハ其攜帶人ノ屬籍氏名年齢ヲ該願書ニ記載スヘシ
- 第二條 稅則第十條ノ帳簿ハ別冊様式ニ據ルヘシ
- 第三條 煙草營業者ハ左ノ雛形ニ倣ヒ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ

○稅務

本年(六月) 縣令第五十
 二號ヲ以テ
 本令中第七
 條第二十條
 加(廿七年) 第七
 月三十一日
 以テ廿一年
 第六月二十
 日ヲ以テ
 追加ス
 除條外
 第廿七號
 第廿七號

煙草製造
 小賣營業
 住所氏名

木札 豎曲尺 二尺九寸
 巾同 八寸

第四條 煙草製造人ハ其製造場及ヒ貯藏場ノ區域ヲ定メテ標札ヲ掲ケ製造場ニハ製
 造ニ從事スル者ノ氏名ヲ標示スヘシ

第五條 製造器械ハ其帳簿ヲ調製シ種類員數ヲ記載スヘシ
 製造煙草ハ帳簿ニ記載以前製造場外ニ出スヲ得ス
 但乾燥ノ爲メ一時場外ニ出スハ此限ニアラス

第六條 煙草出賣ヲ爲スルハ其煙草ノ量目個數ヲ帳簿ニ記載之ヲ携帯スヘシ

第七條 煙草製造人ノ營業場外ニ於テ葉取葉拵及葉卷ヲ爲スモノハ其戶外ニ左ノ離
 形ニ倣ヒ標札ヲ揭示スヘシ

煙草製造何ノ誰下職
 煙草 葉取 葉拵 葉卷
 住所 氏名

木札 豎曲尺 一尺五寸
 巾 五寸

第八條 煙草營業者不在等ノ事故アルルハ豫メ代人ヲ定メ置營業ニ關スル諸般ノ
 ヲ辨セシムヘシ

第九條 煙草製造ニ屬スル器械(鉋臺ゼンマイ臺手切庖丁ノ類)ハ番號ヲ付シ檢印ヲ
 受クヘシ

第十條 煙草製造人ニ於テ製造煙草ノ包裹ニ商標又ハ彩紋裝飾ヲ加フルルハ豫メ其
 見本ヲ租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第十一條 煙草製造人證約狀ヲ出シタル後證約金額ニ異動ヲ生シタルルハ五日以内
 ニ其引替ヲ乞フヘシ

第十二條 前條ノ期限ヲ過キ證約狀ノ引替ヲ申出サルトキ又ハ證約金ノ徵收期限ヲ
 怠リタルトキハ鑑札ヲ差押ヒ其營業ヲ停止スヘシ

第十三條 煙草製造人又ハ仲買人ニ於テ耕作人ヨリ葉煙草ヲ買受ケタルルハ其量目
 代金ヲ記載調印セシ買入書ヲ交付スヘシ

第十四條 製造人若クハ仲買人ニ於テ葉煙草ヲ買入又ハ預入受戻ヲ爲ストキハ其種
 類量目個數ヲ取調雙方連署租稅檢査員派出所ニ届出ツヘシ

第十五條 煙草製造人若クハ仲買人ニシテ抵當流レ質流レノ煙草ヲ買受ントスルト
 キハ其種類量目個數ヲ取調雙方連署租稅檢査員派出所ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第十六條 内國産ニアラサル煙草ヲ買入ル、キハ其證明書ヲ賣渡人ヨリ取置クヘシ
 但租稅檢査員隨時之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十七條 煙草營業者廢業賣殘リノ煙草ヲ所持スルルキハ其種類量目個數ヲ取調租稅

○縣令第四十七號

明治二十一年六月九日

明治十九年(五月)甲第三十三號布達烟草耕作規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 烟草ヲ耕作スル者ハ自作ト小作トニ拘ハラス毎年作付ノ反別及收穫見込高

ヲ第一號書式ニ倣ヒ取調七月三十日限リ郡區長及戶長ヲ經テ届出ヘシ

第二條 耕作烟草實收後見込高ニ對シ一割以上ノ増減ヲ生シタルハ第二號書式ニ

倣ヒ取調郡區長及戶長ヲ經テ届出ヘシ

第三條 耕作烟草ヲ烟草製造人又ハ仲買人ニ賣渡シタルキハ製造人又ハ仲買人ヨリ

買入證ヲ取リ之ヲ保存シ置クヘシ

第四條 烟草耕作人ハ一町村又ハ一部落限リ便宜惣代人ヲ定メ其他代人ヲシテ第一

條及第二條ノ届出ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 烟草作付反別收穫高及賣渡高ハ租稅檢査員臨時臨檢スルコトアルヘシ

第六條 烟草耕作人ニシテ葉烟草ヲ質入又ハ受戻ヲ爲スルハ其種類量目個數ヲ取調

双方連署租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

(第一號甲)

明治何年烟草作付反別並收穫見込高御届

字 番 地	種 反 別	採 收 期	乾 上 期	種 類	類 作 付 株 數	收 穫 見 込 量 目
-------------	-------------	-------------	-------------	--------	-----------------------	----------------------------

字何々
何番地
烟或ハ宅地
何反何畝歩何
月何
月
丸葉或ハ(何々)
何
株
何貫何百目

右ハ明治何年烟草作付反別並收穫見込高御届仕候也

縣郡町村番地

年月日

烟草耕作人

何

某

知事宛

(第一號乙)

明治何年烟草作付反別並收穫見込高御届

字 番 地	種 反 別	採 收 期	乾 上 期	種 類	類 作 付 株 數	收 穫 見 込 量 目	作 付 主 氏 名
計							

右者明治何年烟草作付反別並收穫見込高御届仕候也

○稅務

賣藥行商許可之證 何縣郡區町村族籍 賣藥營業者 氏 名 一方名 一方名 一方名 一方名 一方名 右行商聞届候事		賣藥行商許可之證 何縣郡區町村族籍 賣藥營業者 氏 名 賣子 氏 名 一方名 一方名 一方名 一方名 一方名 右行商聞届候事	
賣藥受賣者自ラ行商ノ分 賣藥行商許可之證 何應府縣郡區町村族籍 賣藥營業人 氏 名 何縣郡區町村族籍 賣藥請賣營業者 氏 名 一方名 一方名 一方名 一方名 一方名 右行商聞届候事		賣藥請賣者賣子ヲ派出シ行商セシムル分 賣藥行商許可之證 何應府縣郡區町村族籍 賣藥營業人 氏 名 何縣郡區町村族籍 賣藥受賣營業氏名 賣子 氏 名 一方名 一方名 一方名 一方名 一方名 右行商聞届候事	

○縣令第五十三號

明治二十一年六月二十七日

烟草仲買人小賣人ニシテ改正稅則附則第三十八條及第三十九條第二項ノ場合ニ於テ印紙ノ買入ヲ爲ストキハ施行細則第二十二條ノ手續ヲ爲スヘシ

○訓令第五十六號

明治二十一年六月二十九日 郡 區

所得稅調查費支給方ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 所得稅調查委員ノ手當ハ日當金壹圓五拾錢トス
但往復旅費ハ左表ノ金額ヲ支給ス

瀛 車 賃	瀛 船 賃	車 馬 賃
中 等 實 費	一 海 里 每	一 〇 里 每
金 五 錢	金 一 錢	金 六 錢

第二條 所得稅調查委員會ニ要スル筆紙墨ハ現品ヲ以テ之ヲ支給スルモノトス

第三條 所得稅調查費ハ收稅長ヨリ交付セシムヘキヲ以テ其額内之ヲ支給セシメ決算仕譯書ヲ製シ正當領收證ヲ添差出スヘシ

○訓令第五十八號

明治二十一年七月六日

郡 區

烟草稅則第二條及第四條ノ鑑札書式ヲ定ムルコト左ノ如シ

廿四年(六
月)訓令第
三十八號ヲ
改正シ第二
條ヲ除ク第
三條ヲ二條
ニ改メ第一
條ニ條上ヲ
加ヘ下ヲ加
フ

○稅 務

紙製

第號

烟草仲買營業免許鑑札

縣國郡町村
番地

何之誰

木製

第號

烟草仕入鑑札

(烟草製造仲買小賣)人
郡町村番地氏名
縣郡町村何之誰

年齡

明治年月日

郡區押印

宮城縣廳印

三百四

明治年月日

宮城縣廳烙印

裏面

裏面

○稅務

○訓令第六十一號

明治二十一年七月十三日

郡區

所得稅納稅者届出テタル書面ニ誤謬ノ廉アルヲ以テ訂正方申出ツルキハ郡區長之ヲ
審査シ其事實明確ト認ムル者ニ限り左ノ區別ニ從テ之ヲ取扱フヘシ

第一項 調査委員會開會以前ニ申出ツル者ハ郡區長ニ於テ之レヲ訂正セシムヘシ

第二項 届出ノ重複ニ涉レル者ハ調査委員會決議後ト雖郡區長ニ於テ之ヲ訂正スルコトヲ得

第三項 第二項ノ場合ヲ除クノ外其申出ノ調査委員會決議後ニ係ル者ハ所得稅法第十八條及第二十條ニ據リ處分スヘシ

○縣令第六十四號

明治二十一年八月二十五日

醬油製造人心得左ノ通改正シ來ル九月一日ヨリ施行ス

第一項 醬油製造營業願ハ第一號書式ニ倣ヒ郡區長ヲ經由差出スヘシ

第二項 稅則施行細則第三條第五條ノ届書ハ第二號第三號第四號書式ニ依ルヘシ

第三項 稅則施行細則第十六條ノ帳簿様式ハ第五號第六號第七號第八號ニ依ルヘシ

第四項 營業人ハ左ノ雛形ニ倣ヒ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ

免許鑑札番號

三百五

第一號書式
 第二十三號
 第十三月
 第五頁
 改正

豎曲尺三尺

第何號

醬油 何石造

國郡區町村番地
 何 某

幅 八 寸

第五項 醬油製造用ノ容器器械ハ番號ヲ附記スヘシ

第六項 醬油製造用容器ノ容量検査ヲ受ケタルトキハ左ノ木札ヲ該容器ニ釘付スヘシ

番 號 (桶ト同番號ヲ用ユヘシ)

口 徑

洞 徑

底 徑

深 サ

石 數

年 月 日

官 姓 名

第七項 醬油ノ仕込ヲ了セシキハ左ノ木札ヲ容器ニ釘付スヘシ

第何號仕込

一何石造

明治何年何月何日留

第八項 醬油製造用ノ容器々械ノ検査ヲ受ケタルキハ調査簿ニ請印ヲ捺スヘシ

第九項 容器ノ内輪替其他修繕ヲ加ヘタルキハ容量ノ増減ヲ生セサルモノト雖モ稅則施行細則第八條ニ依リ更ニ検査ヲ受クヘシ

第十項 容器々械ヲ賣買讓與貸借又ハ返却スルキハ其番號品目員數ヲ記載シ双方連署租稅検査員派出所ニ届出ツヘシ但烙印ノモノハ其消却ヲ受ケタル後ニ非レハ之ヲ授受スルヲ得ス

第十一項 仕込又ハ熟成醗ノ検査及製成スヘキ石高ノ査定ヲ受ケタルキハ醬油檢査簿ニ請印ヲ捺スヘシ

第十二項 溜リ搾器械ノ封緘開封ハ租稅檢査員派出所ニ申出ツヘシ

第一號書式

第二號書式

醬油製造用器械種類

○稅務

員數目錄

免許鑑札番號

製造用器械

國郡區町村番地

製造場

一 容器

第何號ヨリ
第何號マテ

何個

一 内欠號

第何號

何個

一 醬油槽

第何號ヨリ
第何號マテ

何個

一 内何號

何個借入

一 層枰

何個

一 男柱

何本

一 締木

何本

一 掛袋

何枚

一 垂レ罌

何個

一 蒸釜

同

一 熬釜

同

一 挽臼

同

- 一 試桶
- 一 桃桶
- 一 擔桶
- 一 柄杓
- 一 麴板
- 一 糶
- 一 何々

- 同
- 同
- 同
- 同
- 同
- 同
- 同

右製造用器械前記ノ通相違無之候尤モ以後増減有之節ハ其時々御届可仕候也

國郡區町村番地(寄留)

原籍府縣國郡區町村番地

年 月 日

何 某印

租稅検査員何派出所宛

凡例

一 醬油製造用諸器械ハ使用ト否トヲ問ハス製造場内ニ現存セシモノハ無渡記載ス
ヘシ

第三號書式

醬油製造及醸造見込石御届

○稅務

免許鑑札番號
 一 醬油醪何石
 但明治何年醸造仕込
 大豆 何石
 麥 何石
 鹽 何石
 水 何石
 醸造年度ノ異ナルモノハ之ヲ區分スヘシ
 一 醬油醪何石 明治何年仕込見込高
 但何石造幾仕舞ノ見込 但シ醸造減何割ノ見込
 大豆 何石
 麥 何石
 鹽 何石
 水 何石
 右ハ明治何年製造見込石數前書ノ通相違無之候也

郡區町村番地
 製造場

第何號ヨリ第何號迄何々

年月日

姓名印

租稅検査員派出所宛

第四號書式 醬油醸造方法

郡區町村番地

營業人

郡區町村番地 製造場

免許鑑札番號 一 醬油下仕舞方法

元石 何石

食鹽 何石

水 何石

此醸石何石何斗

此製成醬油何石何斗

但麴室何石指何度仕込一仕舞トシテ鹽水何石ヲ混和又ハ鹽水何石ヲ仕込桶ニ入麴何石ツ、何箇度ニ仕込モノトス（醸造方法ノ異ナルモノハ實際ノ手續ヲ詳記スヘシ）

○稅務

醬油一槽摺方法

一 醬油醪何石

此製成醬油何石

外水何石

此粕何貫目

但醪垂何割何分ノ見込

但醪一石ニ付何割

但一槽何石搾トシ何年醸造醪何石何年醸造醪何石ヲ混和火ヲ與ヘ煮ル時間大凡幾時間ヲ度トシ槽掛ニ着手スルモノトス(製造方法ノ異ナルモノハ其實際ヲ詳記スヘシ)

番醬油製造方法

一番醬油一ト仕舞方法

元粕何貫目

食鹽何石

水

但水一石ニ付何分ノ割

但生醪一石ニ付幾水ノ割

此釀石何石何斗

此製成醬油何石何斗但醪垂何割何分ノ見込但水ヲ釜ニ入沸騰セシメ醪何石ヲ混和溶解シ漸次粕何貫目ツ、入糶シテ攪回シ煮ルコト何時間ヲ度トシ待桶ニ移シ槽掛ニ着手スルモノトス(製造方法ノ異ナルモノハ其實實ヲ詳記スヘシ)

右ハ明治何年醬油釀造方法及摺方法前書ノ通ニ候尤以後變更有之節ハ其時々御届可仕候也

年月日

郡區町村番地

姓

名印

租稅檢査員何派出所宛

凡例

一 釀造方法變更届書ハ本文ニ準據スヘシ

第五號書式

明治何年何月ヨリ

醬油製造原品買入帳

國郡區町村番地

醬油製造人

何

某

免許證札番號

凡例

一 醬油製造原品ハ元受及拂ト口分ヲナシ記入スヘシ

一 元品ノ自作小作ニ係ルモノハ代價ノ欄ニ其理由ヲ記入スヘシ

○稅務

明治二十二年(三月)法律第九號ヲ以テ國稅徵收法公布セラレタルニ付四月一日以前
既ニ徵收令書ヲ發シタルモノハ從前ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

○訓令第三十一號 明治二十二年三月三十日 郡

勅令第三十九號土地臺帳ハ從前ノ地券臺帳ヲ整理修補シ之ニ充ツヘシ

○訓令第四十號 明治二十二年四月二日 郡

明治二十二年(三月)法律第九號國稅徵收法ニ掲クル收入官吏ハ從來徵稅事務ヲ擔任
スル吏員ト心得其人屆出ツヘシ

○訓令第四十一號 明治二十二年四月四日 郡

地租ニ關スル事務取扱手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 地租ニ關スル願屆書ハ其筆限リ字番號地目反別等級地價地租及所有者ヲ土

地臺帳及地圖ニ照查シ主任官之ニ檢印シテ縣廳ニ送附スヘシ

第二條 土地ノ分合筆ニ關スル願屆書ニシテ反別地價ノ分配合併相當ヲ得ルモノハ直

ニ之ヲ許可シ土地臺帳ヲ訂正スヘシ其反別地價ニ増減ヲ生スル者ハ前條ノ手續ヲ

ナスヘシ

第三條 前二條ノ場合ニ於テ知事ノ聽許ニ係ルモノハ收稅長ノ通達ニ依リ直チニ土

地臺帳地圖及地租臺帳ヲ整理スヘシ

第四條 土地所有ノ移轉又ハ質入及其解約ニ係ル登記所ノ通知ヲ得タル時並住所氏

名異動ノ屆出ヲ得タルトキハ直ニ土地臺帳ヲ訂正ス可シ

第五條 前條ノ訂正ヲ經タルモノハ納期毎ニ納租者異動表ヲ作り各納期三十日以前

之ヲ町村長ニ通報ス可シ其以後納期末日迄ニ係ルモノハ其時々之ヲ通報スヘシ

第六條 土地臺帳ノ謄本ヲ請フモノアルトキハ即日之ヲ下附スヘシ

第七條 地租ノ既往年度ニ遡リ徵收スヘキモノハ第一號様式ニ準シ追加地租臺帳ヲ

調製シ之ヲ記入スヘシ

第八條 毎年一月ニ於テ土地臺帳ニ就キ明治二十年訓令第五號土地臺帳總計式ニ準

シ地目毎ニ係ル反別地價地租ヲ合計シ地租臺帳ニ照合シ第二號各様式ニ準シ地租

表ヲ調製シ二月十五日限リ收稅長ニ報告ス可シ但地租追加ニ係ルモノモ第三號様

式ニ準シ不表ト共ニ報告スヘシ

○縣令第四十一號 明治二十二年四月二十四日

土地ヲ分裂シ又ハ合併セントスルキハ該地相當ノ反別地價ヲ分配合併シ野取圖ヲ添

へ直稅分署ヲ經テ屆出ツヘシ

○訓令第五十二號

明治二十二年五月一日 郡市役所 町村役場

本年(三月)法律第九號國稅徵收法第八條第二項ノ徵稅令書ヲ受ケタル納稅人若シ其

納期限以内ニ於テ分納セントスルトキハ本年(三月)大藏省令第五號國稅徵收法施行

細則第四條第四號様式ニ準シタル納付書ヲ添付シテ金庫へ納付シ其別符ノ切離及而

廿四年(七
月)縣令第
三十五號ヲ
以テ字句改
正

○稅務

收證ノ檢印ヲ收入官吏ニ請フコトヲ得

○訓令第五十四號

明治二十二年五月十三日

郡役所

本年(四月)訓令第四十一號地租ニ關スル事務取扱手續第三條ノ地圖修正ハ左ノ取扱ヲナスヘシ

- 一 地圖ノ修正ハ全國ニ掛ケ紙ヲ貼シ其掛ケ紙へ修正圖ヲ登載スルモノトス
- 一 前項ノ場合ニ於テハ修正ニ係ル地番號年月日及ヒ事由ヲ餘白ニ詳記シ主任者之ニ小印ヲ捺シ精確ヲ證スルモノトス
- 一 町村役場ノ地圖モ前二項ニ依リ整理セシム

○縣令第四十八號

明治二十二年六月五日

仙臺市所得稅調查委員選舉手續ヲ定ムルヲ左ノ如シ

- 第一條 仙臺市所得稅調查委員選舉人ノ員數ハ二十五名トス
- 第二條 選舉人ヲ選舉スルトキハ豫メ投票ヲ爲スヘキ日時場所ヲ定メ十日以前ニ之ヲ告示スヘシ
- 第三條 選舉投票ハ被選人ノ住所姓名ヲ記載シ封緘ノ上之ヲ豫定ノ場所ニ差出ス可シ但選舉人住所姓名ハ其封皮ニ記載ス可シ
- 第四條 投票ハ選舉人ノ面前ニ於テ之ヲ披キ其票點ノ多數ヲ得タルモノヲ當選人トシ若シ同數ナルトキハ年長ヲ取り同年ナルトキハ圖ヲ以テ之ヲ定ム但當選人正當

ノ事故アリテ辭退シタルトキハ投票ノ多數ヲ得タル者ヨリ順次之ニ充ツ

第五條 當選人ニハ其旨ヲ示シ尙之ヲ公告ス可シ

○訓令第五十九號

明治二十二年六月十三日

郡市役所 町村役場

他廳ノ委託ヲ受ケ租稅ヲ徵收スルトキハ其徵稅令書及納付書ニ(某廳主管)ノ印ヲ押捺スヘシ

○訓令第六十號

明治二十二年六月十四日

市役所 町村役場

本年勅令第三十三號ニ據リ市町村長ニ於テ徵收ヲ取扱フヘキ諸稅ハ一人別帳簿ヲ備置異動ノ時々之ヲ修正スヘシ

國稅徵收法第十三條ニ據ル稅金滯納者ノ報告ハ該納期後日數一週日以内ニ之ヲ收稅部出張所ニ差出スヘシ

地租ニ關スル諸願ノ指令書ハ收稅部出張所ヲ經テ之ヲ交付スヘキニ付其帳簿等修正ノ上本人へ下渡スヘシ

諸營業及船舶鑑札ハ收稅部出張所ヨリ之ヲ送付セシムヘキニ付其帳簿等修正ノ上本人へ下渡スヘシ

但廢業解船等及車類ノ異動ハ同出張所ヨリ別ニ通報ヲナサシム可シ

○訓令第六十一號

明治二十二年六月十八日

郡役所 町村役場

明治二十一年度以前戸長ニ對シ徵稅令書ヲ發セシ國稅ニシテ徵收未濟ノ儘該年度出

納閉鎖期限ヲ經過シタル未納稅ヲ本年度以降ニ於テ上納セントスルトキハ各納稅人ヲシテ本年(三月)大藏省令第五號國稅徵收法施行細則第四條第四號ノ様式ニ準シタル納付書ヲ以テ上納ノ手續ヲ爲サシム可シ

○訓令第六十四號

明治二十二年七月八日

郡市役所 町村役場

國稅金ノ内金庫へ納付後ニ於テ其徵稅令書へ記載ノ年度科目(項以上)ノ誤記ヲ發見スルトキハ郡長ヨリ之レカ訂正ヲ金庫へ照會ス可シ其納付書ノ誤記ニ係ルモノハ之ヲ納付セシモノヨリ金庫へ訂正ヲ請求ス可シ

○訓令第六十五號

明治二十二年七月十九日

郡市役所

明治二十一年(六月)縣令第四十七號煙草耕作規程第一條第二條ノ屆書ハ收稅部出張所へ送付スヘシ

○訓令第七十一號

明治二十二年九月二十八日

市町村役場

本年(三月)法律第九號國稅徵收法第三條第二項市町村交付金ハ左ノ期限ニ依リ該金高取調收稅部出張所經由請求書差出スヘシ

前期每會計年度 自其年四月 至 九月 九月三十日限

後期同 自十月 月 三月三十一日限

○縣令第六十八號

明治二十二年十二月四日

廿三年(五月)縣令第六號
以テ本令中
第一號及第
三號及第
十號及第
十四號及第
十六號及第
修正

○地目ヲ變換シ又ハ第一類地ニ變換シ地租額例第十條ニ依リ届出ツルトキハ此例ニ依ルヘシ
○二名以上ノ連署届出スルトキハ一筆限リ反別ノ下ノ氏名有ヘシ
○地目ヲ變換シ又ハ第一類地ニ變換シ地租額例第十條ニ依リ届出ツルトキハ此例ニ依ルヘシ

土地ヲ分合シ賣買讓與賃入ヲナサントスルモノハ其登記請求前ニ於テ本年(六月)縣令第五十一號ノ手續ヲナスヘシ

○縣令第三號

明治二十三年二月三日

明治二十二年大藏省令第十九號第十五條ニ依リ地租條例中當廳ニ差出スヘキ願屆書式ヲ定ムルコト左ノ如シ

但明治十七年(五月)甲第三十五號布達其他本令ニ抵觸スルモノハ廢止第一號様式(用紙大判美濃)

地目(第一類地ヲ第二類地ニ)變換御届

○印ハ朱書

全筆ノ例

郡市町村

字何番

○元何反別、、、、

○此地價金、、、、

○此地租金、、、、

何等

○一何反別、、、、

○内反別、、、、

丈量増

○稅務

宮城縣知事宛

前書ノ通相違無之候也

年月日

市町村長 何

某印

第三號様式

何々敷成免租願

郡市町村

字地番

一何反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

内

反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

内

金、、、、

金、、、、

残反別、、、、

反金、一厘(余又ハ内)

何々敷成

何年何月ヨリ何ヶ月分月割減

何年ヨリ可減分

四拾五ノ入
セシモノ
ナシ其ノ
納シ全地
租ヨリ全
ナシ引キ
ナシ引キ
ナシ引キ
トスル租
額ニシテ
有租地チ
免租地チ
ノ許可命
令ヲ得ル
ハ工事セ
シキハ此
例ニ依リ
免租ナシ
出ツヘシ
連名以上
連署スル
トキハ第
一ノ様式
ニ依リ
筆限以下
ノ有下ノ
氏名ヲ記
スヘシ
月割地租
ノ算出ハ
先キ月後
ナヘキ月
後スル

二十ノ除ケ
得テ所ノシ
ニテ五ノ位
拾五ノ位
其ノ年ノ租
租額ニシテ
全地租ノ額
引ルルル
額ニシテ

此地價金、、、、

此地租金、、、、

内反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

郡市町村

字地番

一何反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

内

金、、、、

金、、、、

度野取圖相添此段相願候也

右ハ何々ニ付何年何月何日御許可ヲ得(何月ヨリ工事着手致)候間何月ヨリ免租相成

年月日

郡市町村大字番地

某印

○稅務

○十年以内
 見込功ノ
 開墾ニアル
 例第拾六條
 依ルトキ
 出ルハシ
 依ルハシ

宮城縣知事宛
 前書之通相違無之候也

年月日

市町村長 何

某印

第四號様式
 開墾御届

全筆ノ例

郡市町村

字地番

一何反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

分裂ノ例

郡市町村

一何反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

開墾目的田又ハ畑

反金、、、、厘
 (余又ハ内)

○地租條例
 第一拾六條
 開墾地着
 手ノ年ヨ
 リ十年目
 ニ至リ同
 條第二項

内
 反別、、、、
 此地價金、、、、
 此地租金、、、、
 殘反別、、、、
 此地價金、、、、
 此地租金、、、、
 (外幾筆ニテモ此例ニ倣ヒ取調總計ヲ付スヘシ)
 右地所何年何月ヨリ着手開墾致候ニ付此段御届仕候也
 開墾目的畑又ハ郡村宅地

年月日

何

某印

宮城縣知事宛
 前書ノ通相違無之候也

年月日

市町村長 何

共印

第五號様式

開墾地々價修正願

全筆ノ例

○稅務

ニ依リ地
價正ナ
願出ルト
キハ此例
シニ依ル

○二名以上
連署願出
ルトキハ
一筆ノ限
反別ノ下
ニ所有主
ノ氏名ヲ
記ス可シ

郡市町村

字番地

○元何反別、、、

。此地價金、、、

。此地租金、、、

何等

一田反別、、、

内反別、、、

外反別若干

此地價金、、、

此地租金、、、

○目的田

丈量増

畦畔

此比準地

同字何番地何等

反金、、、(余又ハ内)

○(比準地同一ナルトキハ次筆ヨリ)
(比準地同上ト記スヘシ)

○分裂ノ例

郡市町村

字地番

○元何反別、、、

。此地價金、、、

。此地租金、、、

。内

。反別、、、

。此地價金、、、

。此地租金、、、

何等

一畑反別、、、

。外反別、、、

此地價金、、、

此地租金、、、

○反金、、、(厘)

(余又ハ内)

丈量減

此比準地

同字何番何等

反金、、、(厘)(余又ハ内)

○稅務

此地價金、
此地租金、

○(外幾筆ニテモ渾テ此例ニ倣ヒ取調ニ筆以上ニ涉ルトキハ總計ヲ付スヘシ)
右ハ何年何月何日御届開墾ノ處成功ニ付地價修正相成度野取圖相添此段相願候也

年月日

郡市町村大字番地

何

某印

前書ノ通相違無之候也

年月日

市町村長 何

某印

第六號書式

開墾地銀下年期

全筆ノ例

郡市町村

字地番

一何反別、

此地價金、

此地租金、

開墾目的田

○地租條例第三十六條
依第三項開墾ニ
願出ル期
例トキハ此
ヘシニ依ル
○銀下年期
ノ異ナル
トキハ開
墾目的地
年ヨリ何

年々年々
マテマテ
スヘシト
記下何

分裂ノ例

郡市町村

字地番

一何反別、

此地價金、

此地租金、

内

反別、

此地價金、

此地租金、

殘反別、

此地價金、

此地租金、

○(外幾筆ニテモ此例ニ倣フ且ニ筆以上ニ涉ルモノハ總計ヲ付シ尙開墾目的
目等ノ異ナルトキハ其總計ニ之レカ内譯ヲナスヘシ)

右ハ明治何年何月着手開墾致候處十年以内ニ成功ノ見込無之候間明治何年ヨリ何年
マテ何ヶ年銀下年期御許可相成度此段相願候也

○稅務

○官有土地ノ開拓シテ
 民有ニシテ地租ノ
 第七項ニ依ル地租
 第四項ニ依ル地租
 及地價査定ノ
 出ルルトキハ
 依ル例ニ
 依ル例ニ
 依ル例ニ
 依ル例ニ

年月日 宮城縣知事宛
 前書ノ通相違無之候也
 年月日 市町村長 何 某印
 第七號様式
 御拂下地(御下ケ渡地)地價御査定(及鐵下年期)願
 郡市町村
 字地番
 元官有原野(何々)反別若干
 何等
 一何反別、、、、
 外反別若干
 此地價金、、、、
 此地租金、、、、
 内金、、、、
 金、、、、
 何年何月ヨリ何々月分月割納租
 何年ヨリ可増分
 此比準地
 睦畔
 郡市町村大字番地 何 某印

第二號様式ニ依ル

○官有土地ノ開拓シテ
 民有ニシテ地租ノ
 第七項ニ依ル地租
 第四項ニ依ル地租
 及地價査定ノ
 出ルルトキハ
 依ル例ニ
 依ル例ニ
 依ル例ニ
 依ル例ニ

年月日 宮城縣知事宛
 前書ノ通相違無之候也
 年月日 市町村長 何 某印
 第八號様式
 新開免租年期
 郡市町村
 字地番
 一水面埋立地反別、、、、
 何々使用
 右埋立地明治何年何月何日御下ケ渡(又ハ御拂下)相成候間明治何年ヨリ何年マテ何
 ケ年新開免租年期御許可相成度此段相願候也
 郡市町村大字番地
 同字何番何等
 反金、、、、厘(余又ハ内)
 右地所何々使用又ハ豫約開拓成功ノ爲メ明治何年何月何日御拂下御下ケ渡ニ付素地
 ノ地價御査定ノ上何年ヨリ何年マテ何ケ年鐵下年期御許可相成度此段相願候也
 年月日 何 某印
 前書ノ通相違無之候也
 年月日 市町村長 何 某印

○稅務

○耕地下ノ區
 更ニシテハ
 形スルニ
 目ヲ變換
 メルメ
 開墾ニ
 シキ勞費
 租六條第
 六十項ニ
 依ル
 置キ出ル
 ナキハ
 例トシテ
 依ル

年月日
 宮城縣知事宛
 前書ノ通相違無之候也
 年月日
 市町村長 何
 某印

第九號様式

(耕地(區畫)變更)
 (地目變換)ニ付地價据置年期願

郡市町村
 字地番
 一何反別、、、

此地價金、、、

此地租金、、、

一何反別、、、

此地價金、、、

此地租金、、、

何等
 計何反別、、、

○新開免租
 至成明
 年開免
 租功
 地租八
 條例
 第十
 期ハ
 出ル
 此例
 依ル
 連名以
 上
 元トキ
 期ノハ

此地價金、、、
 此地租金、、、
 右地所區畫又ハ形狀變更(地目變換)致度候處開墾ニ等シキ勞費ヲ要シ候間明治何年
 ヨリ何年マテ何ケ年地價据置年期御許可相成度此段相願候也
 年月日
 宮城縣知事宛
 前書ノ通相違無之候也
 年月日
 市町村長 何
 某印

第十號様式
 鉞下(新開免租)繼年期願

郡市町村
 字地番

明治何年ヨリ何年マテ何ケ年期
 一何反別、、、

此地價金、、、

開墾目的田(又ハ田ニ使用)

○稅務

例トキハ此ルニ依ル
 二名以上
 連署願出
 元反別ノ
 下ニ別キ
 主ノ氏有
 シタスヘ

○元山林反別、、、、

○目的用何年ヨリ何ケ年
何年マテ何ケ年

○此地價金、、、、

○此地租金、、、、

何等

一田反別、、、、

内反別、、、、

外反別若干

此地價金、、、、

此地租金、、、、

此比準地

何字何番何等

反金、、、、厘(余又ハ内)

同字何番

○元原野反別、、、、

○此地價金、、、、

○此地租金、、、、

○内

○反金、、、、厘(余又ハ内)

○反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

何等

一畑反別、、、、

○外反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

○丈量減

目的畑何年ヨリ何ケ年
何年マテ何ケ年

此比準地

同字何番何等

反金、、、、厘(余又ハ内)

殘反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

同字何番

○元山林反別、、、、

○此地價金、、、、

目的田何年ヨリ何ケ年
何年マテ何ケ年

○稅務

此地租金、
 何等
 一田反別、
 内反別、
 外反別若干
 此地價金、
 此地租金、
 元反別、
 此地價金、
 此地租金、
 何筆
 計反別、
 内反別、
 外反別、
 此地價金、
 此地租金、
 丈量增
 丈量減
 此比準地何番ニ同シ

此譯
 元山林反別、
 此地價金、
 此地租金、
 何筆
 田反別、
 内反別、
 外反別若干
 此地價金、
 此地租金、
 元原野反別、
 此地價金、
 此地租金、
 何筆
 畑反別、
 外反別、
 此地價金、
 此地租金、
 丈量增
 丈量減
 目的田何年ヨリ何ケ年
 何年マテ
 目的畑何年ヨリ何ケ年
 何年マテ

○稅務

鐵下年期及ヒ元地目現地目ノ異ナルモノハ此例ニ倣ヒ内譯ニ記載スヘシ
右ハ鐵下(地價据置地)年期明ニ付地價修正御許可相成度野取圖相添此段相願候也

郡市町村大字番地

何 某印

年月日 宮城縣知事宛
前書ノ通相違無之候也

市町村長 何 某印

第十二號様式

新開地々價御査定願

郡市町村

字地番

。田又ハ畑何年ヨリ何ケ年

元新開地反別、、、、
何等

一何反別、、、、

内反別、、、、

外反別若干

此地價金、、、、

丈量増

畦畔

此地租金、、、、

此比準地

同字何番何等

反金、、、、厘(余又ハ内)

右ハ免租年期明ニ付地價御査定相成度野取圖相添此段相願候也

郡市町村大字番地

何 某印

年月日 宮城縣知事宛
前書ノ通相違無之候也

市町村長 何 某印

第十三號様式

荒地成免租年期願

全筆ノ例

郡市町村

字地番

一田反別、、、、

明治何年ヨリ何年マテ何ケ年期

川欠荒地成

○有租地トナリ
荒地租トナリ
例第ニ依リ
免租年出ル
ナキハ此ル
トキハ例ニ
シテ依ル
ヘシ
○二名以上
連署願出
ルトキハ
一筆限リ

○稅務

反別ノ下
所有ノ主
ノ氏名ヲ
記スヘシ

分裂ノ例

字地番

一畑反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

内

反別、、、、

明治何年ヨリ何年マテ何ケ年期

此地價金、、、、

此地租金、、、、

殘反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

何筆

計反別、、、、

石砂入荒地成

反金、、、、厘
(余又ハ内)

荒地成

此地價金、、、、

此地租金、、、、

此譯

何筆

田反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

何筆

畑反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

。免租年期ノ異ナルモノハ此例ニ倣ヒ年期限リ内譯ニ記載スヘシ

右ハ本年何月何日何川洪水(又ハ何々被害ノ理由詳記スヘシ)ノ爲メ荒地ニ相成候間
前書ノ通免租年期御許可相成度野取圖相添此段和願候也

郡市町村大字番地

何

某印

宮城縣知事宛

年月日

○稅務

。此地價金、
。此地租金、
等級
一田反別、
内反別、
外反別若干
此地價金、
此地租金、
同字同番ノ内第一
元田反別、
。此地價金、
。此地租金、
等級。雜木山(又ハ何々)
一山林反別、
内反別、
外反別若干
此地價金、
此地租金、
起返
丈量増
畦畔
。同年期
田山林成
丈量増
畦畔
此地價金、
此地租金、

分裂起返及繼年期ノ例

字地番

元反別、
。此地價金、
。此地租金、
内
。反別、
。此地價金、
。此地租金、
等級
一田反別、
此地價金、
此地租金、
外反別、
起返
。何年ヨリ何ケ年
何年マテ何ケ年
。反金、
。反金、
此比準地
何字何番何等。雜木山(又ハ何々)
反金、
。繼年期

○稅務

合併起返ノ例

何字何番何筆合併

元反別、、、ハ

。此地價金、、、

。此地租金、、、

等級

一田反別、、、

内反別、、、

外反別若干

此地價金、、、

此地租金、、、

元反別、、、

。此地價金、、、

。此地租金、、、

何筆

一反別、、、

内反別、、、

何年ヨリ何ケ年
何年マテ何ケ年
。反金、、、厘余(又ハ内)

起返

丈量増
畦畔

丈量増

。外反別、、、

此地價金、、、

此地租金、、、

此譯

元反別、、、

。此地價金、、、

。此地租金、、、

何筆

田反別、、、

内反別、、、

反別、、、

。外反別、、、

此地價金、、、

此地租金、、、

。丈量減

何年ヨリ何ケ年
何年マテ何ケ年

畑田成増

何々増

丈量増

田山林成減

何々減

丈量減

。免租年期ノ異ナルモノハ此例ニ倣ヒ年期限リ内譯ニ記載スヘシ
(他ノ地目モ田ノ例ニ倣ヒ地目順ニ記載スヘシ)

○稅務

○荒地免租
至期明ニ
價ニ復シ
租キメ
地租例
第一條
依リ
低價年
ナハル
トキハ
例ニ依
ル

右荒地免租年期明ニ付前記ノ通り地價御査定相成度野取圖相添此段相願候也

年月日

前書ノ通相違無之候也

年月日

第十五號様式

荒地起返低價年期願

郡市町村

字地番何等

元反別、、、、

。此地價金、、、、

。此地租金、、、、

一田反別、、、、

内反別、、、、

外反別若干

此地價金、、、、

何年ヨリ 何ケ年

何年マテ

郡市町村大字番地

市町村長 何

某印

何年ヨリ 何ケ年

何年マテ

何割何分何年ヨリ 何ケ年低價年期

丈量増

畦畔

。元反金、、、、厘(余又ハ内)

反金、、、、厘(余又ハ内)

○荒地免租
至期明ニ
價ニ復シ
租キメ
地租例
第一條
依リ
低價年
ナハル
トキハ
例ニ依
ル

右荒地免租年期明ノ處原地價ニ復シ兼候間前記ノ通低價年期御許可相成度野取圖相添此段相願候也

年月日

宮城縣知事宛

前書ノ通相違無之候也

年月日

第十六號様式

荒地繼年期願

郡市町村

字地番

一田反別、、、、

。此地價金、、、、

。此地租金、、、、

郡市町村大字番地

何

某印

市町村長 何

某印

。何年ヨリ 何ケ年

何年マテ

何年ヨリ 何ケ年繼

何年マテ

○稅務

ハ此例ニ依ルハ再荒年シ
 例ルモ出ツル
 例ニ依ル
 二名以上
 連署願出
 ツル限リ
 一筆ノ下
 反別ノ主
 ニ所有シ
 ノ氏名
 記スル

字地番

一畑反別、、、、

何年ヨリ何ケ年
 何年マテ何ケ年
 何年マテ何ケ年

○此地賃金、、、、

計

○此地租金、、、、

一反別「川成(石砂入何々)」、、、、

○此地賃金、、、、

○此地租金、、、、

此譯

○何筆

○何年ヨリ何ケ年
 何年マテ何ケ年

田反別、、、、

何年ヨリ何ケ年
 何年マテ何ケ年

○此地賃金、、、、

○此地租金、、、、

○何年ヨリ何ケ年
 何年マテ何ケ年

畑反別、、、、

何年ヨリ何ケ年
 何年マテ何ケ年

○地租條例
 第二十四條
 土地ノ租額
 出ルトキ
 依ルハ此例ニ
 シ

○此地賃金、、、、

○此地租金、、、、

○(年期ノ異ナルモノハ此例ニ倣ヒ年期限リ内譯ニ記載スヘシ)

右荒地年期限ノ處原地ニ復シ兼候間前記ノ通繼年期御許可相成度此段相願候也

年月日

郡市町村大字番地

何 某印

宮城縣知事宛

前書之通相違無之候也

市町村長 何 某印

年月日

第十七號様式

荒地川(海)(湖)成御届

郡市町村

字地番

川(海)(湖)成

一荒何反別、、、、

明治何年ヨリ何年マテ何ケ年期
 右荒地免租年期明ノ處川(海)(湖)ニ歸シ到底原地目ハ勿論他ノ地目ニ變スルノ目途
 無之候間地種御組換相成度此段御届仕候也

○稅務

明治二十年(十)二月九日(大)令第一號
 租九號地
 行細則第一
 七條第一
 項末段ニ
 註スル
 註シテ新
 設本新
 地除却
 ヲ願ハ
 ルハ此
 例ニ依
 ルシ

年月日

宮城縣知事宛

郡市町村大字番地

何 某印

前書ノ通相違無之候也

市町村長 何 某印

睦畔新設地除却願

郡市町村

字地番

一田反別一反五畝步

外反別一畝步

此地價金七拾五圓

睦畔 反金五拾圓

此地租金壹圓八拾七錢五厘

内反別拾步

此地價金壹圓六拾六錢七厘

睦畔新設地

此地租金四錢貳厘

差引

現田反別壹反四畝二十步

外反別壹畝拾步

睦畔

此地價金七拾三圓參拾參錢參厘

此地租金壹圓八拾參錢參厘

。畑ノ睦畔新設モ此ノ例ニ倣フヘシ

右睦畔本年何月新設致候間本地ヨリ除却被成下度野取圖相添此段相願候也

年月日

郡市町村大字番地 氏 名印

宮城縣知事宛

前書之通相違無之候也

年月日

市町村長 氏 名印

(第拾九號様式用紙大判美濃)

睦畔廢除地御編入願

郡市町村

字地番

。元睦畔反別二畝步。外反別一畝步 現存。(外書ノ掲記ヲ要スルハ幾部)

一田反別貳畝壹步

内反別壹步

丈量増

○稅務

此地價金拾圓拾六錢七厘
此地租金貳拾五錢四厘

外

。本地反別參反步

。此地價金百五拾圓

。此地租金參圓七拾五錢

。畦畔量入現田反別參反貳畝壹步

。外反別壹畝步

。此地價金百六拾圓拾六錢七厘

。此地租金四圓四厘

。(畑ノ畦畔廢除モ此ノ例ニ倣フヘシ)

右畦畔本年何月廢除致候間本地へ御編入被成下度野取圖相添此段相願候也

郡市町村大字番地

氏

名印

年月日

宮城縣知事宛

前書之通知違無之候也

市町村長 氏

名印

廿四年(七
月)縣令第
三六號ヲ
以テ字句改
正

第十八號様式

土地分裂届

郡市町村

字地番

一何反別、、、

此地價金、、、

此地租金、、、

外反別、、、

地價金、、、

地租金、、、

此分裂

何番

反別、、、

此地價金、、、

此地租金、、、

何番ノ内第一

反別、、、

反金、、、厘(余又ハ内)

地盤丈量増

○稅務

此地價金、
 此地租金、
 郡市町村
 字地番
 一何反別、
 此地價金、
 此地租金、
 内反別、
 地價金、
 地租金、
 此分裂
 何番
 反別、
 此地價金、
 此地租金、
 何番ノ内第一
 反別、
 此地價金、
 反金、
 厘(余又ハ内)
 地盤丈量減

此地租金、
 右地所前記ノ通分裂致候間野取圖相添此段御届仕候也
 年月日
 宮城縣知事宛
 前書ノ通相違無之候也
 年月日
 第十九號様式
 土地合併届
 郡市町村
 字何番何筆合併
 一何反別、
 此地價金、
 此地租金、
 内
 何番
 反別、
 市町村長 何
 某印
 某印

此地價金、
此地租金、

何番
反別、
此地價金、
此地租金、

右地所前記ノ通合併致候間野取圖相添此段御届仕候也

郡市町村大字番地

年月日

何

某印

宮城縣知事宛

前書ノ通相違無之候也
年月日

市町村長 何

某印

○縣令第四十七號

明治二十三年九月十日

本年(八月)大藏省令第二十號酒造稅施行細則第二十三條ニ據リ帳簿記入方其他書式等ノ手續ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治十七年(九月)甲第八十六號布達ハ來ル十月一日ヨリ廢止ス

第一條 酒造稅則施行細則第一條ノ願書ハ第一號乃至第二號書式ニ據ルヘシ

廿七年九月廿四日
縣令第四十七號
第一條
第二條
第三條
第四條
第五條
第六條
第七條
第八條
第九條
第十條
第十一條
第十二條
第十三條
第十四條
第十五條
第十六條
第十七條
第十八條
第十九條
第二十條
第二十一條
第二十二條
第二十三條
第二十四條
第二十五條
第二十六條
第二十七條
第二十八條
第二十九條
第三十條
第三十一條
第三十二條
第三十三條
第三十四條
第三十五條
第三十六條
第三十七條
第三十八條
第三十九條
第四十條
第四十一條
第四十二條
第四十三條
第四十四條
第四十五條
第四十六條
第四十七條
第四十八條
第四十九條
第五十條
第五十一條
第五十二條
第五十三條
第五十四條
第五十五條
第五十六條
第五十七條
第五十八條
第五十九條
第六十條
第六十一條
第六十二條
第六十三條
第六十四條
第六十五條
第六十六條
第六十七條
第六十八條
第六十九條
第七十條
第七十一條
第七十二條
第七十三條
第七十四條
第七十五條
第七十六條
第七十七條
第七十八條
第七十九條
第八十條
第八十一條
第八十二條
第八十三條
第八十四條
第八十五條
第八十六條
第八十七條
第八十八條
第八十九條
第九十條
第九十一條
第九十二條
第九十三條
第九十四條
第九十五條
第九十六條
第九十七條
第九十八條
第九十九條
第一百條

第一條
第二條
第三條
第四條
第五條
第六條
第七條
第八條
第九條
第十條
第十一條
第十二條
第十三條
第十四條
第十五條
第十六條
第十七條
第十八條
第十九條
第二十條
第二十一條
第二十二條
第二十三條
第二十四條
第二十五條
第二十六條
第二十七條
第二十八條
第二十九條
第三十條
第三十一條
第三十二條
第三十三條
第三十四條
第三十五條
第三十六條
第三十七條
第三十八條
第三十九條
第四十條
第四十一條
第四十二條
第四十三條
第四十四條
第四十五條
第四十六條
第四十七條
第四十八條
第四十九條
第五十條
第五十一條
第五十二條
第五十三條
第五十四條
第五十五條
第五十六條
第五十七條
第五十八條
第五十九條
第六十條
第六十一條
第六十二條
第六十三條
第六十四條
第六十五條
第六十六條
第六十七條
第六十八條
第六十九條
第七十條
第七十一條
第七十二條
第七十三條
第七十四條
第七十五條
第七十六條
第七十七條
第七十八條
第七十九條
第八十條
第八十一條
第八十二條
第八十三條
第八十四條
第八十五條
第八十六條
第八十七條
第八十八條
第八十九條
第九十條
第九十一條
第九十二條
第九十三條
第九十四條
第九十五條
第九十六條
第九十七條
第九十八條
第九十九條
第一百條

同條第二項ニ據リ認可ヲ請クヘキ書類ハ第三號乃至第四號書式ニ據ルヘシ
稅則施行細則第二條及第三條ノ願書ハ第二十號第二十一號書式ニ據ルヘシ

第二條 酒造稅則第二十六條及第二十七條ノ願書ハ第五號乃至第七號ノ書式ニ據ルヘシ

第三條 酒造稅則第二十八條ノ標札ハ第八號書式ニ據ルヘシ

第四條 施行細則第十一條營業免許後不動產異動ノ届書ハ第九號書式ニ據ルヘシ
第五條 施行細則第十二條第十三條酒造用器ノ検査ヲ申出ルトキハ第十號書式ニ據ルヘシ

前項ノ検査ヲ受ケタルトキハ其調査簿ニ請印ヲ爲スヘシ

第六條 酒造稅則第二十五條酒造(搾り)器械封緘ノ受書ハ第十一號書式ニ據リ受書ヲ豫メ差出シ置キ其時々請印ヲナスヘシ

第七條 醱製酒等ノ検査ヲ受ケタルトキハ酒造検査簿ニ請印ヲ爲スヘシ
造石査定検査ノ願書ハ第二十二號書式ニ據ルヘシ

第八條 稅則第十條但書ノ届書ハ第二十二號書式ニ據ルヘシ
稅則第十六條ノ免除願ハ第二十四號書式ニ據ルヘシ

稅則施行細則第十七條ノ届書ハ第二十五號書式ニ據ルヘシ
第九條 買入酒類ヲ變製セントスルトキハ其旨申出検査ヲ受クヘシ

○稅務

本年(十一
月)縣令第一
五十四號ヲ
以テ第十二
條削除

第十條 稅則第十六條ノ酒類ニシテ廢棄ニ屬セシモノヲ酢元等ニ販賣セントスルト
キハ其所用ヲ明記シ買主連署ノ書面ヲ差出スヘシ
第十一條 施行細則第二十二條ノ帳簿記入方ハ第十二號乃至第十九號ノ書式ニ據ル
ヘシ
第十二條 稅則第五條ニ依リ代人ヲ立ルトキハ委任狀寫ヲ添ヘ代人連書届出ヘシ
(第一號書式)

酒造營業免許願

郡市(町村)番地

酒 造 場

- 一 一類酒何石
- 一 二類酒何石
- 一 三類酒何石

右酒造場ニ於テ明治何年度前記酒類製造營業仕度候間免許鑑札御下渡相成度同業者
連署別紙圖面並調書相添此段相願候也

郡市(町村)番地(寄留)

(原籍(府縣)國(郡市町村)番地)

願 人 氏 名 印

年 月 日

郡市(町村)番地

酒造營業人 氏

名 印

以下連署前ニ倣フ

縣知事宛

○市町村長ノ與書ハ一般ノ例ニ依ルヘシ
○稅則第十八條迄石稅免除ノ酒類ヲ釀造スルモノハ釀造方法ヲ添付スヘシ
(第一號書式附屬ノ一)

何縣何郡市(町村)番地酒造場地所建物畧圖

凡例

○ハ朱書

酒造ニ關スル建物

酒造ニ關セサル建物

地所區域

道 路